

令和 2 年度

一宮市公営企業会計決算審査意見書

一宮市公営企業会計資金不足比率審査意見書

( 病 院 事 業 )

一 宮 市 監 査 委 員

— 凡 例 —

- 1 消費税及び地方消費税は、本文中の予算執行状況及び審査資料中の予算決算対照表、決算両年度比較表においては税込みの額、その他においては税抜きの額で表示した。
- 2 比率は、小数点第2位で四捨五入してあるので、端数処理の関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 文中及び各表中の符号の用法は次のとおりである。
  - 「0.0」…… 算出により零となるもの、又は該当数値はあるが単位未満のもの
  - 「－」……算出不能なもの、又は該当数値がないもの
  - 「△」……負数
  - 「皆増」……前年度に数値がなく、全額増加したもの
  - 「皆減」……当年度に数値がなく、全額減少したもの

# 目 次

ページ

## 令和2年度一宮市病院事業会計決算審査意見

第1	審査の対象	1
第2	審査の方法等	1
第3	審査の結果	3
概	要	3
1	業務状況	3
2	予算執行状況	11
3	経営状況	16
4	財政状態	21
む	す	30
び		

## 令和2年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率審査意見

第1	審査の対象	33
第2	審査の方法等	33
第3	審査の結果	33

## 病院事業会計決算審査資料

予算決算対照表	36
決算両年度比較表	38
比較損益計算書	40
収益的支出科目別及び経費別両年度比較表	46
比較貸借対照表	52
比較財務分析表	58



# 一宮市病院事業会計決算審査意見



令和3年8月23日

一宮市長 中野正康様

一宮市監査委員 和家 淳

一宮市監査委員 岸 澤 修

一宮市監査委員 河村 弘 保

一宮市監査委員 中村 かずひと

令和2年度一宮市公営企業会計（病院事業会計）  
決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和2年度一宮市病院事業会計  
決算及び決算附属書類について審査した結果、次のとおりその意見を提出します。





# 令和２年度一宮市病院事業会計決算審査意見

地方公営企業法第30条第2項による決算審査を一宮市監査委員監査基準に準拠して実施した。その概要及び結果は次のとおりである。

## 第1 審査の対象

令和２年度一宮市病院事業会計決算

## 第2 審査の方法等

### 1 主な着眼点

一会計年度における事務事業の決算に対し、計数の正確性を検証するとともに、予算の執行又は事業の経営が、適正かつ効率的に行われているかどうかの主眼を置いて審査した。

#### (1) 形式審査

- ア 決算書類は関係法令に定める様式に準じて作成されているか。
- イ 決算計数は証書類の計数と一致しているか。
- ウ 決算書類相互の関連計数は一致しているか。

#### (2) 実質審査

##### ア 共通的事項

- ・会計処理が適正に行われているか。
- ・正規の簿記の原則に従って正確な会計帳簿が作成されているか。
- ・会計処理の基準及び手続について継続して用い、みだりに変更していないか。
- ・財政状態及び経営成績に関する会計真実を決算書その他の会計に関する書類に適正かつ明瞭に表示しているか。
- ・財政に不利な影響を及ぼすおそれがある事態にそなえて健全な会計処理が行われているか。
- ・一般会計等との負担区分は適切か。

##### イ 業務状況

- ・業務実績の前年度との比較分析

##### ウ 予算執行状況

- ・収益的収支及び資本的収支の予算執行状況が適正かつ効率的か。
- ・収入は適正に確保されているか。
- ・予算の繰越しは適正に行われているか。
- ・資本的収入が資本的支出に対して不足する額の補てん財源は妥当か。また、その表示は明瞭か。

- ・消費税及び地方消費税分は備考欄に内書きされているか。

#### エ 経営状況

- ・損益計算書は経営成績を適正に表示しているか。
- ・収益及び費用の前年度比較による増減事由の検証
- ・単位当たりの収支、各種の比率による事業の経済性の分析評価

#### オ 財政状態

- ・貸借対照表は年度末の財政状態を適正に表示しているか。
- ・貸借対照表の各勘定科目の前年度比較による増減事由の検証
- ・各種の比率による財政状態の分析
- ・キャッシュ・フロー計算書による活動区分ごとの資金の増減要因の分析

### 2 主な実施内容

審査に付された決算及び決算附属書類を基に、次の手続を実施した。

#### (1) 書類の審査

審査に付された決算及び決算附属書類と、総勘定元帳、関係補助簿、関連保管文書等との照合等を行った。

#### (2) 経営分析

年度間比較、財政指標の算出により当年度の経営状況を確認した。

#### (3) 説明の聴取

事業管理者、部長、次長及び担当課長等関係職員から説明を聴取した。

### 3 実施場所及び主な日程

監査事務局による 書類調査	監査事務局	令和3年6月2日～ 同年7月8日
監査委員による本審査	市民病院及び木曾川市 市民病院会議室	同年7月20日、同月21日

### 第3 審査の結果

以上のとおり審査した限りにおいて、決算その他関係書類が法令に適合し、かつその計数は正確であり、本年度の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

審査結果の概要及び意見は次のとおりである。

#### 概 要

##### 1 業務状況

本年度の一宮市病院事業会計の業務量及び前年度との増減状況は次のとおりである。

区 分	診療科数	患者 別		病 床 数	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		前年度 対 比
					年 間 延 数	一 日 平 均	年 間 延 数	一 日 平 均	
市民病院	23	入 院	一 般	570	153,740	421	170,151	465	90.4
			結核・ 感染症	24	5,289	14	4,408	12	120.0
			計	594	159,029	436	174,559	477	91.1
		外 来	時間内		274,408	1,129	305,016	1,260	90.0
			時間外		14,796	41	24,421	67	60.6
			計		289,204		329,437		87.8
木曾川 市民病院	5	入 院	一 般	82	23,224	64	26,018	71	89.3
			療 養	48	16,491	45	17,141	47	96.2
			計	130	39,715	109	43,159	118	92.0
		外 来	時間内		32,315	133	33,288	139	97.1
			時間外		77	0	180	0	42.8
			計		32,392		33,468		96.8
計	入 院		724	198,744	545	217,718	595	91.3	
	外 来			321,596		362,905		88.6	
入院・外来患者数合計					520,340		580,623		89.6

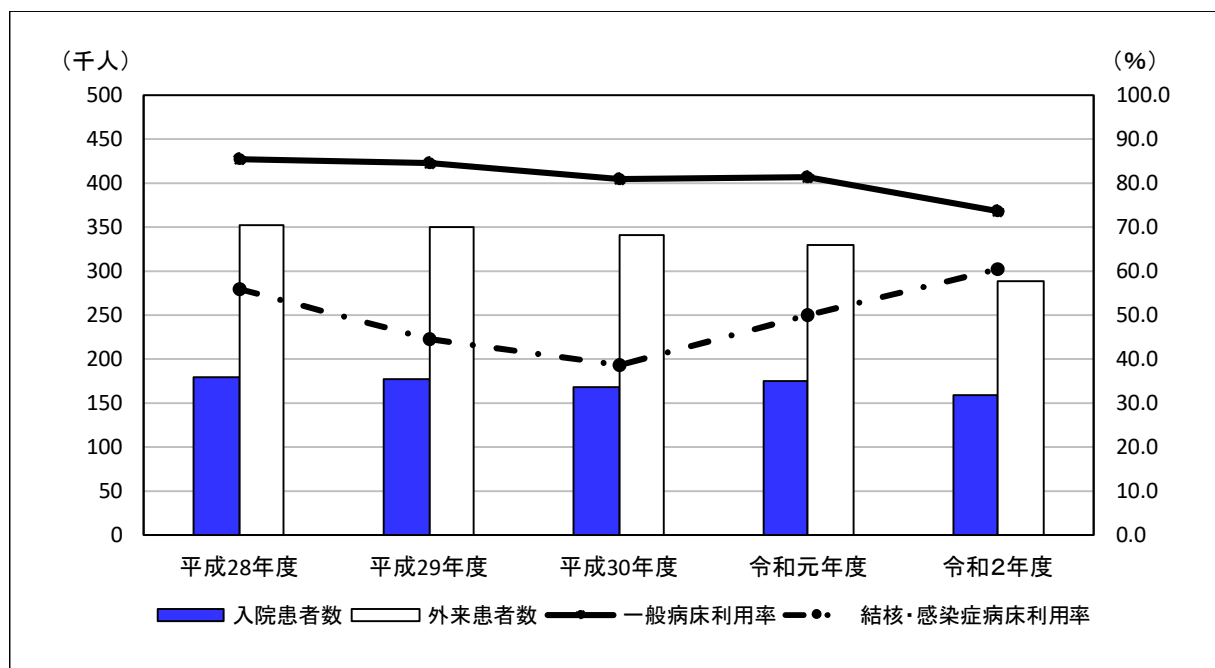
- (注) 1 病床数は稼働病床数である。  
 2 木曾川市民病院の一般病床の稼働病床数は、令和2年10月1日から90床より86床、令和3年2月1日から82床となった。  
 3 入院及び外来時間外取扱診療日数は、365日である。(前年度366日)  
 4 外来時間内診療日数は、243日である。(前年度市民病院242日、木曾川市民病院240日)  
 5 患者数の一日平均については、四捨五入により計と一致しない場合がある。

表でみられるように、本年度の総利用患者数は、延 52 万 340 人で前年度に比べ 6 万 283 人（10.4%）減少している。そのうち入院患者数は、延 19 万 8,744 人で前年度に比べ 1 万 8,974 人（8.7%）減少し、外来患者数は、延 32 万 1,596 人で前年度に比べ 4 万 1,309 人（11.4%）減少している。

最近 5 か年の各病院の患者数及び稼働病床利用率の推移は、次のとおりである。

○市民病院

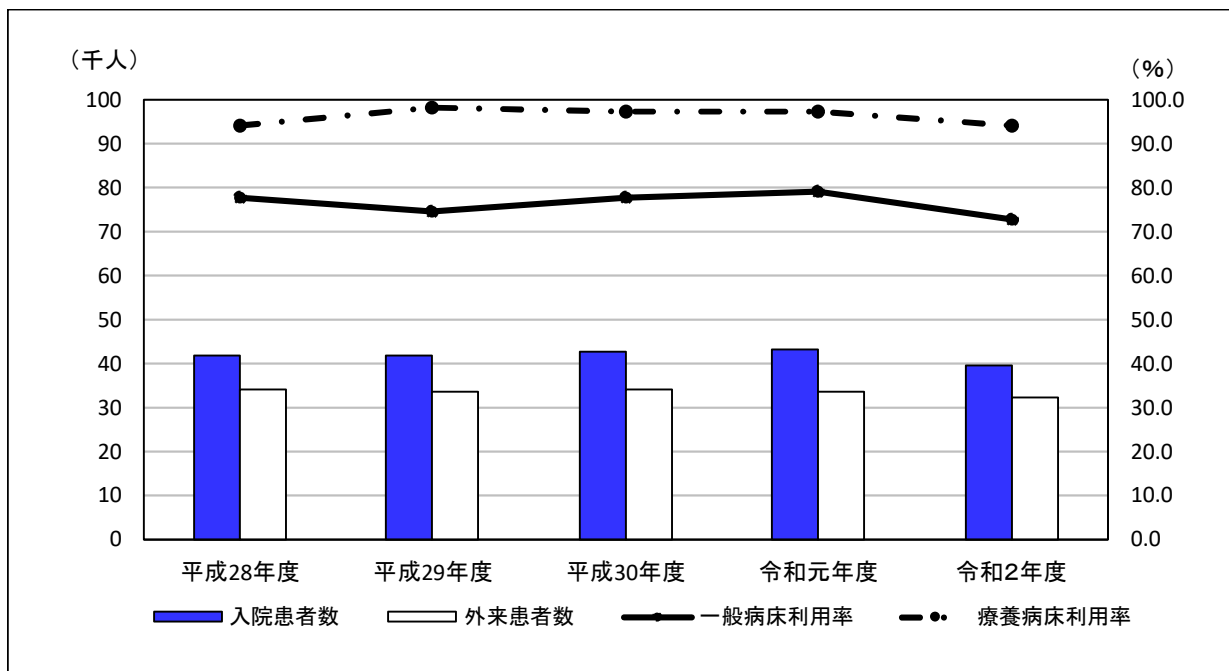
区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
患 者 数	入 院	180,107 人	176,430 人	169,347 人	174,559 人	159,029 人
	外 来	353,186	349,683	340,188	329,437	289,204
稼 働 病 床 利 用 率	一 般	85.7 %	84.4 %	80.8 %	81.6 %	73.9 %
	結核・感染症	55.9	44.6	38.8	50.2	60.4



市民病院の稼働病床利用率（ $\frac{\text{年間入院患者数}}{\text{年間延病床数（稼働病床数）}} \times 100$ ）は、一般病床では、73.9%で前年度に比べ 7.7 ポイント下降しており、結核・感染症病床では、60.4%で前年度に比べ 10.2 ポイント上昇している。

○木曾川市民病院

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
患 者 数	入 院	42,077 人	41,701 人	42,577 人	43,159 人	39,715 人
	外 来	34,258	33,595	34,065	33,468	32,392
稼働病床 利 用 率	一 般	77.8 %	74.6 %	77.7 %	79.0 %	72.8 %
	療 養	94.3	98.2	97.4	97.6	94.1



木曾川市民病院の稼働病床利用率は、一般病床では、72.8%で前年度に比べ 6.2 ポイント下降しており、療養病床では、94.1%で前年度に比べ 3.5 ポイント下降している。

また、診療科別患者数を前年度と比較すれば、次のとおりである。

診療科	令和2年度			令和元年度			増・△減			
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	
市民病院	腎臓内科	7,091	8,358	15,449	6,154	6,691	12,845	937	1,667	2,604
	血液内科	11,039	11,179	22,218	12,456	11,389	23,845	△1,417	△210	△1,627
	糖尿病・ 内分泌内科	2,705	10,621	13,326	2,257	12,345	14,602	448	△1,724	△1,276
	一般内科	—	1,267	1,267	—	2,241	2,241	—	△974	△974
	循環器内科	19,043	18,813	37,856	19,302	21,051	40,353	△259	△2,238	△2,497
	呼吸器内科	24,103	15,848	39,951	24,303	17,111	41,414	△200	△1,263	△1,463
	消化器内科	12,421	18,443	30,864	15,468	23,256	38,724	△3,047	△4,813	△7,860
	脳神経内科	10,188	11,380	21,568	13,733	12,690	26,423	△3,545	△1,310	△4,855
	小児科	11,792	22,663	34,455	14,775	26,596	41,371	△2,983	△3,933	△6,916
	外科	11,963	14,651	26,614	13,498	15,312	28,810	△1,535	△661	△2,196
	呼吸器外科	166	414	580	672	1,295	1,967	△506	△881	△1,387
	心臓血管外科	3,465	2,540	6,005	3,922	2,890	6,812	△457	△350	△807
	血管外科	4,725	2,461	7,186	3,957	2,775	6,732	768	△314	454
	整形外科	9,527	20,098	29,625	9,569	21,914	31,483	△42	△1,816	△1,858
	脳神経外科	5,651	6,392	12,043	7,359	6,874	14,233	△1,708	△482	△2,190
	皮膚科	5,374	32,576	37,950	4,611	35,389	40,000	763	△2,813	△2,050
	泌尿器科	3,478	10,780	14,258	4,513	13,095	17,608	△1,035	△2,315	△3,350
	産婦人科	9,307	16,193	25,500	9,848	18,175	28,023	△541	△1,982	△2,523
	眼科	649	11,593	12,242	892	12,326	13,218	△243	△733	△976
耳鼻いんこう科	3,417	16,471	19,888	4,943	19,828	24,771	△1,526	△3,357	△4,883	
放射線治療科	32	8,544	8,576	114	6,003	6,117	△82	2,541	2,459	
救急科	—	1,789	1,789	—	2,048	2,048	—	△259	△259	
歯科口腔外科	1,624	11,334	12,958	2,213	13,722	15,935	△589	△2,388	△2,977	
緩和ケア	1,269	—	1,269	—	—	—	1,269	—	1,269	
時間外取扱患者	—	14,796	14,796	—	24,421	24,421	—	△9,625	△9,625	
計	159,029	289,204	448,233	174,559	329,437	503,996	△15,530	△40,233	△55,763	
(うち結核・感染症)	(5,289)	(—)	(5,289)	(4,408)	(—)	(4,408)	(881)	(—)	(881)	

診療科		令和2年度			令和元年度			増・△減		
		入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
木曾川市民病院	内科	15,701	20,182	35,883	18,954	21,001	39,955	△3,253	△819	△4,072
	外科	0	555	555	0	620	620	0	△65	△65
	整形外科	6,978	7,333	14,311	0	6,051	6,051	6,978	1,282	8,260
	眼科	0	3,229	3,229	0	3,606	3,606	0	△377	△377
	リハビリテーション科	545	1,016	1,561	7,064	2,010	9,074	△6,519	△994	△7,513
	回復期リハビリテーション	16,491	—	16,491	17,141	—	17,141	△650	—	△650
	時間外取扱患者	—	77	77	—	180	180	—	△103	△103
	計	39,715	32,392	72,107	43,159	33,468	76,627	△3,444	△1,076	△4,520

前表のとおり、市民病院の入院・外来患者数は、ともにほぼ全診療科で前年度に比べ減少した。

入院患者数が減少した要因は、令和2年8月中旬から新型コロナウイルス感染症患者受入れのため一般病棟をコロナ専用病棟に転用したことや、新型コロナウイルスの感染状況に応じ全診療科で入院患者数や手術数の制限を行ったことなどであると考えられる。

外来患者数が減少した要因は、診療科を問わず、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う受診控えなどであると考えられる。

木曾川市民病院の入院・外来患者数は、ともにほぼ全診療科で前年度に比べ減少した。

入院患者数が減少した要因は、令和2年7月下旬から新型コロナウイルス感染症患者受入れのため一般病床をコロナ専用病床に転用したことや、地域包括ケア病床拡充工事により2か月間8床使用できなかったことなどであると考えられる。

外来患者数が減少した要因は、市民病院同様、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う受診控えなどであると考えられる。

なお、整形外科疾患の入院・外来患者数は平成29年4月から整形外科常勤医師の不在によりリハビリテーション科で集計されていたが、令和2年4月から2名の常勤医師の配置により整形外科で集計されることとなった。

年度末の職員数を前年度と比較してみると、次のとおりである。

区 分		令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	増 ・ △ 減
病 院 事 業 管 理 者		人 1	人 1	人 0
医 師		154	149	5
内 訳	市 民 病 院	143	141	2
	木 曾 川 市 民 病 院	11	8	3
看 護 師		695	707	△ 12
内 訳	市 民 病 院	623	636	△ 13
	木 曾 川 市 民 病 院	72	71	1
医 療 技 術 員		234	232	2
内 訳	市 民 病 院	184	182	2
	木 曾 川 市 民 病 院	50	50	0
事 務 員		62	60	2
内 訳	市 民 病 院	51	49	2
	木 曾 川 市 民 病 院	11	11	0
技 術 員（市民病院）		2	2	0
労 務 員（市民病院）		5	9	△ 4
再 任 用 ・ 会 計 年 度 任 用 職 員		402	—	402
内 訳	市 民 病 院	335	—	335
	木 曾 川 市 民 病 院	67	—	67
嘱 託 ・ 臨 時		—	175	△ 175
内 訳	市 民 病 院	—	137	△ 137
	木 曾 川 市 民 病 院	—	38	△ 38
計		1,555	1,335	220
内 訳	市 民 病 院	1,344	1,157	187
	木 曾 川 市 民 病 院	211	178	33

- (注) 1 職員数は各年度の3月31日付け退職者数を含めている。  
 2 病院事業管理者は、計の内訳のうち市民病院に含めている。  
 3 地方公務員法の改正（令和2年4月1日施行）による会計年度任用職員制度導入等に伴い、職種区分を嘱託・臨時職員から再任用・会計年度任用職員に改めた。  
 4 令和2年度の再任用・会計年度任用職員の職員数には、令和元年度までは含めていなかった非常勤再雇用嘱託職員及び非常勤臨時職員にあたる職員数を含めている。



前表中、各病院の医師数を診療科別にみると、次のとおりである。

○市民病院

診 療 科	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	増・△減	診 療 科	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	増・△減
	人	人	人		人	人	人
腎 臓 内 科	4	4	0	泌 尿 器 科	4	4	0
血 液 内 科	6	6	0	産 婦 人 科	9	7	2
糖 尿 病・内 分 泌 内 科	6	4	2	眼 科	2	2	0
循 環 器 内 科	11	10	1	耳 鼻 い ん こ う 科	5	5	0
呼 吸 器 内 科	8	7	1	放 射 線 治 療 科	2	2	0
消 化 器 内 科	10	11	△ 1	放 射 線 診 断 科	4	5	△ 1
脳 神 経 内 科	6	5	1	歯 科 口 腔 外 科	4	4	0
小 児 科	15	15	0	病 理 診 断 科	1	1	0
外 科	14	12	2	麻 酔 科	3	4	△ 1
呼 吸 器 外 科	0	1	△ 1	救 急 科	2	4	△ 2
心 臓 血 管 外 科	5	5	0	精 神 科 医	1	1	0
血 管 外 科	3	3	0	緩 和 ケ ア	1	1	0
整 形 外 科	6	7	△ 1	が ん 診 療 セ ン タ ー	1	1	0
脳 神 経 外 科	3	3	0				
皮 膚 科	7	7	0	合 計	143	141	2

○木曾川市民病院

診 療 科	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	増・△減
	人	人	人
内 科	6	5	1
整 形 外 科	2	0	2
眼 科	1	1	0
リハビリテーション科	2	2	0
合 計	11	8	3

次に、職員及び患者1人当たりの医業収益、医業費用をみると、次のとおりである。

区 分	全 体			職 員 1 人 当 たり			患 者 1 人 当 たり			
	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	前 年 度 対 比	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	前 年 度 対 比	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	前 年 度 対 比	
医 業 収 益	円 21,246,587,290	円 21,530,304,105	% 98.7	円 13,663,400	円 16,127,569	% 84.7	円 40,832	円 37,081	% 110.1	
内 訳	市 民 病 院	19,267,271,067	19,451,466,902	99.1	14,335,767	16,811,985	85.3	42,985	38,594	111.4
	木 曾 川 市 民 病 院	1,979,553,844	2,083,941,871	95.0	9,381,772	11,707,539	80.1	27,453	27,196	100.9
医 業 費 用	23,726,327,631	23,972,231,138	99.0	15,258,089	17,956,727	85.0	45,598	41,287	110.4	
内 訳	市 民 病 院	21,389,840,934	21,602,978,568	99.0	15,915,060	18,671,546	85.2	47,720	42,863	111.3
	木 曾 川 市 民 病 院	2,336,724,318	2,374,357,238	98.4	11,074,523	13,339,086	83.0	32,406	30,986	104.6

- (注) 1 医業収益及び医業費用の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。  
 2 内部取引として医業収益及び医業費用から相殺消去された額は、令和2年度が237,621円、令和元年度が5,104,668円である。  
 3 職員1人当たりの医業収益、医業費用の算出にあたっては、8ページの職員数を基にした。

病院事業の患者1人当たりの医業収益は、4万832円で前年度に比べ10.1%の増加となっている。患者1人当たりの医業費用については、4万5,598円で前年度に比べ10.4%の増加となっている。

したがって、本年度の患者1人当たりの医業収益と医業費用の差である医業損益は、4,766円の損失となっている。

また、医業収益対医業費用比率（ $\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$ ）は、89.5%で前年度に比べ0.3ポイント下降している。

なお、病院事業決算では、後述のとおり、高度医療、救急医療等に対する一般会計負担金などの、医業費用に含まれている経費に対応する収益が医業外収益として計上されている。

そこで、これらの収益を前表の医業収益に含めてみれば、職員及び患者1人当たりの医業収益は、次のとおりになる。

区 分	全 体			職 員 1 人 当 たり			患 者 1 人 当 たり			
	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	前 年 度 対 比	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	前 年 度 対 比	令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	前 年 度 対 比	
医 業 収 益	円 24,295,184,410	円 22,841,310,354	% 106.4	円 15,623,913	円 17,109,596	% 91.3	円 46,691	円 39,339	% 118.7	
内 訳	市 民 病 院	22,072,555,431	20,546,108,398	107.4	16,423,032	17,758,089	92.5	49,243	40,766	120.8
	木 曾 川 市 民 病 院	2,222,866,600	2,300,306,624	96.6	10,534,913	12,923,071	81.5	30,827	30,020	102.7

- (注) 職員1人当たりの医業収益の算出にあたっては、8ページの職員数を基にした。

## 2 予算執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

#### <収入>

収益的収入は、予算現額 240 億 6,119 万 3,000 円に対し、決算額 249 億 7,968 万 9,109 円、執行率 103.8%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分	予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	予算現額に 比べ決算額 の増・△減	執行率 (B) (A)	決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税
	円	円	円	%	円
医 業 収 益	21,288,515,000	21,275,876,642	△12,638,358	99.9	29,051,731
内 市 民 病 院	19,280,397,000	19,291,990,732	11,593,732	100.1	24,719,665
内 木 曾 川 市 民 病 院	2,008,118,000	1,983,885,910	△24,232,090	98.8	4,332,066
医 業 外 収 益	2,772,352,000	3,698,904,789	926,552,789	133.4	8,064,083
内 市 民 病 院	2,500,681,000	3,409,893,775	909,212,775	136.4	7,932,095
内 木 曾 川 市 民 病 院	271,671,000	289,011,014	17,340,014	106.4	131,988
特 別 利 益	326,000	4,907,678	4,581,678	1,505.4	11,454
内 市 民 病 院	126,000	4,724,541	4,598,541	3,749.6	11,454
内 木 曾 川 市 民 病 院	200,000	183,137	△16,863	91.6	0
合 計	24,061,193,000	24,979,689,109	918,496,109	103.8	37,127,268
内 市 民 病 院	21,781,204,000	22,706,609,048	925,405,048	104.2	32,663,214
内 木 曾 川 市 民 病 院	2,279,989,000	2,273,080,061	△6,908,939	99.7	4,464,054

決算額の主なものは、医業収益では、入院収益 140 億 1,508 万 1,124 円、外来収益 69 億 3,270 万 9,459 円、医業外収益では、補助金 18 億 2,498 万 8,738 円、負担金・交付金 13 億 7,254 万 862 円である。

#### <支出>

収益的支出は、予算現額 255 億 9,063 万 4,000 円に対し、決算額 252 億 3,220 万 2,034 円、執行率 98.6%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分		予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	不 用 額	執行率 $\frac{(B)}{(A)}$	決算額のうち 仮払消費税及 び地方消費税
		円	円	円	%	円
医 業 費 用		24,376,835,775	24,040,500,413	336,335,362	98.6	313,935,161
内 訳	市 民 病 院	21,904,304,000	21,652,388,130	251,915,870	98.8	262,547,196
	木 曾 川 市 民 病 院	2,472,531,775	2,388,112,283	84,419,492	96.6	51,387,965
医 業 外 費 用		1,212,977,000	1,190,974,717	22,002,283	98.2	6,400,639
内 訳	市 民 病 院	1,164,524,000	1,149,342,986	15,181,014	98.7	6,374,215
	木 曾 川 市 民 病 院	48,453,000	41,631,731	6,821,269	85.9	26,424
特 別 損 失		621,225	726,904	△105,679	117.0	11,553
内 訳	市 民 病 院	231,000	336,679	△105,679	145.7	9,164
	木 曾 川 市 民 病 院	390,225	390,225	0	100.0	2,389
予 備 費		200,000	0	200,000	0.0	0
内 訳	市 民 病 院	100,000	0	100,000	0.0	0
	木 曾 川 市 民 病 院	100,000	0	100,000	0.0	0
合 計		25,590,634,000	25,232,202,034	358,431,966	98.6	320,347,353
内 訳	市 民 病 院	23,069,159,000	22,802,067,795	267,091,205	98.8	268,930,575
	木 曾 川 市 民 病 院	2,521,475,000	2,430,134,239	91,340,761	96.4	51,416,778

決算額の主なものは、医業費用では、給与費 116 億 9,796 万 2,476 円、材料費 67 億 6,026 万 6,328 円、経費 34 億 9,066 万 5,716 円、医業外費用では、雑損失 7 億 1,376 万 7,982 円、支払利息 2 億 1,717 万 874 円である。

(2) 資本的収入及び支出

<収 入>

資本的収入は、予算現額5億4,567万8,000円に対し、決算額5億6,802万9,234円、執行率104.1%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分	予算現額 (A)	決 算 額 (B)	予算現額に 比べ決算額 の増・△減	執行率 $\frac{(B)}{(A)}$	決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税
	円	円	円	%	円
負 担 金	292,527,000	292,525,234	△1,766	100.0	0
内 訳					
市民病院	256,652,000	256,651,032	△968	100.0	0
木曾川 市民病院	35,875,000	35,874,202	△798	100.0	0
寄 附 金 (市民病院)	100,000	0	△100,000	0.0	0
補 助 金	213,051,000	235,504,000	22,453,000	110.5	0
内 訳					
市民病院	191,701,000	214,754,000	23,053,000	112.0	0
木曾川 市民病院	21,350,000	20,750,000	△600,000	97.2	0
繰 入 金 (木曾川市民病院)	40,000,000	40,000,000	0	100.0	0
合 計	545,678,000	568,029,234	22,351,234	104.1	0
内 訳					
市民病院	448,453,000	471,405,032	22,952,032	105.1	0
木曾川 市民病院	97,225,000	96,624,202	△600,798	99.4	0

負担金は、全額、企業債元金償還金に対し一般会計から繰り入れたものである。補助金は、新型コロナウイルス感染症関連の国・県補助金、重症難病患者拠点・協力病院設備整備費補助金である。繰入金は、全額、国民健康保険事業特別会計繰入金で、これは前年度の病院情報システム導入に対する特別調整交付金である。

<支 出>

資本的支出は、予算現額16億2,680万4,000円に対し、決算額15億3,230万4,085円、執行率94.2%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分	予算現額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 $\frac{(B)}{(A)}$	決算額のうち 仮払消費税及び地方消費税
	円	円	円	円	%	円
建設改良費	1,097,888,000	1,003,389,007	54,587,000	39,911,993	91.4	47,975,717
内						
市民病院	1,044,294,000	949,910,644	54,587,000	39,796,356	91.0	45,708,217
内						
木曾川市民病院	53,594,000	53,478,363	0	115,637	99.8	2,267,500
企業債償還金	528,916,000	528,915,078	0	922	100.0	0
内						
市民病院	472,837,000	472,836,840	0	160	100.0	0
内						
木曾川市民病院	56,079,000	56,078,238	0	762	100.0	0
合計	1,626,804,000	1,532,304,085	54,587,000	39,912,915	94.2	47,975,717
内						
市民病院	1,517,131,000	1,422,747,484	54,587,000	39,796,516	93.8	45,708,217
内						
木曾川市民病院	109,673,000	109,556,601	0	116,399	99.9	2,267,500

建設改良費 10 億 338 万 9,007 円の内訳は、建設費 3 億 603 万 5,700 円（全額市民病院）、資産購入費 2 億 7,631 万 1,031 円（市民病院 2 億 5,136 万 8,531 円、木曾川市民病院 2,494 万 2,500 円）、リース資産購入費 4 億 2,104 万 2,276 円（市民病院 3 億 9,250 万 6,413 円、木曾川市民病院 2,853 万 5,863 円）である。

決算額の主なものは、次のとおりである。

#### ア 市民病院

建設費の主なものは、北館・南館（A・B 棟）改修事業（平成 30～令和 3 年度継続事業）に係る改修工事 1 億 3,460 万 3,000 円、空調設備工事 4,723 万円、衛生設備工事 4,476 万円、電気設備工事 3,770 万円、工事監理業務委託 3,365 万円である。

資産購入費は、全身用 X 線 CT 診断装置、体外式膜型人工肺（ECMO）、超音波診断装置などの購入費用である。

リース資産購入費は、病院情報システム、手術支援ロボット、電子カルテシステムサーバーなどのリース資産に係る当年度分のリース料の支払額（利息等相当額を除く）である。

#### イ 木曾川市民病院

資産購入費は、セントラルモニタシステム、汎用人工呼吸器、多用途透析用監視装置などの購入費用である。

リース資産購入費は、病院情報システム、全身用 X 線 CT 診断装置などのリース資産に係る当年度分のリース料の支払額（利息等相当額を除く）である。

資本的支出総額 15 億 3,230 万 4,085 円に対し、資本的収入総額 5 億 6,802 万 9,234 円で、9 億 6,427 万 4,851 円収支不足となっているが、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整

額 86 万 8,050 円、過年度分損益勘定留保資金 9 億 6,340 万 6,801 円により補てんされている。

なお、市民病院の北館・南館（A・B棟）改修事業に係る工事監理業務委託料 331 万円、関連工事費 5,127 万 7,000 円が、継続費逡次繰越として翌年度へ繰り越された。

また、継続費逡次繰越として前年度から繰り越された同事業に係る工事監理業務委託料 400 万円、関連工事費 3,970 万円は、全額執行された。

### 3 経営状況

本年度の経営成績は、医業収益 212 億 4,658 万 7,290 円、医業外収益 36 億 9,084 万 706 円に対し、医業費用 237 億 2,632 万 7,631 円、医業外費用 14 億 8,030 万 3,934 円となった。ただし、決算額は、市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計となっている。

この結果、医業損益では、24 億 7,974 万 341 円の医業損失（市民病院 21 億 2,256 万 9,867 円、木曾川市民病院 3 億 5,717 万 474 円）となり、前年度 24 億 4,192 万 7,033 円の医業損失から 3,781 万 3,308 円損失が増加した。

また、経常損益では、2 億 6,920 万 3,569 円の経常損失（市民病院 1 億 1,192 万 4,972 円、木曾川市民病院 1 億 5,727 万 8,597 円）となり、前年度 19 億 729 万 1,734 円の経常損失から 16 億 3,808 万 8,165 円損失が減少した。

最終損益では、経常損益に特別利益 489 万 6,224 円、特別損失 71 万 5,351 円を加減し、2 億 6,502 万 2,696 円の純損失（市民病院 1 億 753 万 9,400 円、木曾川市民病院 1 億 5,748 万 3,296 円）となり、前年度 19 億 4,899 万 8,365 円の純損失から 16 億 8,397 万 5,669 円損失が減少した。

最近 3 か年の経営成績は、次のとおりである。

区 分	平成 30 年 度		令和 元 年 度		令和 2 年 度	
	決 算 額	前年度対比	決 算 額	前年度対比	決 算 額	前年度対比
病院事業収益	22,255,689,753 円	102.7 %	23,425,231,466 円	105.3 %	24,942,324,220 円	106.5 %
内 市民病院	19,999,535,491	102.7	21,092,981,839	105.5	22,673,945,834	107.5
内 木曾川市民病院	2,263,263,560	102.6	2,337,354,295	103.3	2,268,616,007	97.1
病院事業費用	22,985,603,921	104.8	25,374,229,831	110.4	25,207,346,916	99.3
内 市民病院	20,681,695,375	104.9	22,922,194,971	110.8	22,781,485,234	99.4
内 木曾川市民病院	2,311,017,844	104.5	2,457,139,528	106.3	2,426,099,303	98.7
純利益・△純損失	△729,914,168		△1,948,998,365		△265,022,696	
内 市民病院	△682,159,884		△1,829,213,132		△107,539,400	
内 木曾川市民病院	△47,754,284		△119,785,233		△157,483,296	

- (注) 1 病院事業収益及び病院事業費用の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の 2 病院の決算額の計と一致しない。  
 2 内部取引として病院事業収益及び病院事業費用から相殺消去された額は、平成 30 年度が 7,109,298 円、令和 元 年度が 5,104,668 円、令和 2 年度が 237,621 円である。



表で見られるように、経営成績は、前年度に比べ病院事業収益が6.5%増加したことに対し、病院事業費用は0.7%減少しており、その結果、純損失は前年度19億4,899万8,365円から、本年度は2億6,502万2,696円となった。

なお、病院事業会計の内部取引を相殺消去した純計での総収益対総費用比率  
(  $\frac{\text{病院事業収益}}{\text{病院事業費用}} \times 100$  ) は98.9%で、前年度に比べ6.6ポイント上昇している。

なお、地方公営企業法第17条の2第1項及び総務省通知に基づき算定された地方公営企業繰出金については、市民病院で11億4,993万3,523円、木曾川市民病院で2億1,881万9,844円、合計で13億6,875万3,367円が一般会計負担金として医業外収益に計上されている。

その内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	前 年 度 対 比
市 民 病 院		円	円	%
	企業債償還利息負担金	107,825,685	112,451,535	95.9
	医師等研究研修経費負担金	25,323,817	28,768,720	88.0
	基礎年金拠出金公的負担金	211,344,806	205,173,432	103.0
	救急医療確保経費負担金	241,856,888	258,054,223	93.7
	高度医療経費負担金	104,826,778	119,683,860	87.6
	特殊医療経費負担金	40,189,917	39,988,920	100.5
	周産期医療経費負担金	107,074,826	109,782,613	97.5
	小児医療経費負担金	6,833,160	6,749,940	101.2
	保健衛生行政事務経費負担金	55,459,224	54,700,110	101.4
	共済追加費用負担経費負担金	51,729,600	50,785,224	101.9
	リハビリテーション医療経費負担金	59,952,097	59,434,383	100.9
	結核医療経費負担金	66,290,284	67,426,989	98.3
	感染症医療経費負担金	72,964	260,430	28.0
	児童手当経費負担金	39,446,000	39,022,000	101.1
	院内保育所運営経費負担金	31,707,477	26,262,635	120.7
	計	1,149,933,523	1,178,545,014	97.6
木 曾 川 市 民 病 院	企業債償還利息負担金	7,312,318	7,953,844	91.9
	医師等研究研修経費負担金	2,145,757	1,709,913	125.5
	基礎年金拠出金公的負担金	29,521,583	28,091,441	105.1
	救急医療確保経費負担金	32,371,584	34,670,533	93.4
	高度医療経費負担金	7,192,773	6,963,585	103.3
	特殊医療経費負担金	29,904,278	32,108,786	93.1
	保健衛生行政事務経費負担金	33,386,088	33,456,450	99.8
	共済追加費用負担経費負担金	7,150,800	6,879,312	103.9
	リハビリテーション医療経費負担金	62,420,663	65,003,933	96.0
	児童手当経費負担金	7,414,000	6,456,000	114.8
	計	218,819,844	223,293,797	98.0
合 計	1,368,753,367	1,401,838,811	97.6	

## (1) 収 益

### ア 市民病院

医業収益は、入院収益 126 億 1,972 万 7,172 円、外来収益 63 億 8,872 万 6,672 円を始め総額 192 億 6,727 万 1,067 円で、前年度に比べ 1 億 8,419 万 5,835 円 (0.9%) 減少している。

減少したものは、外来収益 2 億 6,045 万 638 円 (3.9%) である。外来収益が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症に係る加算等により患者 1 人当たりの外来単価が上がったものの、受診控えにより患者数が減少したことなどであると考えられる。なお、増加した主なものは、入院収益 7,859 万 2,972 円 (0.6%) である。入院収益が増加した要因は、入院患者数が減少したものの、DPC (診断群分類包括評価) の医療機関別係数の上昇等により患者 1 人当たりの入院単価が上がったことなどであると考えられる。

医業外収益は、補助金 17 億 9,364 万 7,738 円、負担金・交付金 11 億 5,325 万 6,788 円を始め総額 34 億 196 万 1,680 円で、前年度に比べ 17 億 6,139 万 4,743 円 (107.4%) 増加している。

増加した主なものは、補助金 17 億 3,700 万 4,086 円 (3,066.5%) である。補助金が増加した要因は、新型コロナウイルス感染症関連の国・県補助金が増加したことなどである。

特別利益は、471 万 3,087 円で前年度に比べ 376 万 5,087 円 (397.2%) 増加している。

### イ 木曾川市民病院

医業収益は、入院収益 13 億 9,444 万 8,433 円、外来収益 5 億 4,221 万 8,030 円を始め総額 19 億 7,955 万 3,844 円で、前年度に比べ 1 億 438 万 8,027 円 (5.0%) 減少している。

減少したものは、入院収益 6,999 万 7,267 円 (4.8%)、外来収益 2,429 万 9,726 円 (4.3%) である。入院収益が減少した要因は、内科で地域包括ケア病床を増床したことにより患者 1 人当たりの入院単価が上がったものの、入院患者数が減少したことなどであると考えられる。外来収益が減少した要因は、外来患者数が減少したことや、内科で処方している高額な薬品の使用量が減少したことにより患者 1 人当たりの外来単価が下がったことなどであると考えられる。

医業外収益は、負担金・交付金 2 億 1,928 万 4,074 円を始め総額 2 億 8,887 万 9,026 円で、前年度に比べ 3,549 万 3,269 円 (14.0%) 増加している。

増加した主なものは、補助金 3,088 万 7,000 円 (6,803.3%) である。補助金が増加した要因は、新型コロナウイルス感染症関連の国・県補助金が増加したことなどである。

特別利益は、18 万 3,137 円で前年度に比べ 15 万 6,470 円 (586.8%) 増加している。

## (2) 費 用

### ア 市民病院

医業費用は、213 億 8,984 万 934 円で前年度に比べ 2 億 1,313 万 7,634 円 (1.0%) 減少している。

減少した主なものは、経費 4 億 7,019 万 3,843 円 (14.4%) である。経費が減少した要因は、電子カルテシステム更新に係るシステム構築業務、データ移行業務等の委託料が減少したことなどである。なお、増加した主なものは、材料費 1 億 7,644 万 4,328 円 (2.8%)、減価償却費 6,588 万 8,179 円 (3.6%) である。材料費が増加した要因は、循環器領域の高額な診療材料の使用量が増加したことなどであると考えられる。減価償却費が増加した要因は、令和元年度に導入した電子カルテシステム関連のリース資産の減価償却が開始されたことなどであると考え

られる。

医業外費用は、13億9,131万6,785円で前年度に比べ1億1,434万5,871円(9.0%)増加している。

増加した主なものは、雑損失1億1,444万7,357円(13.6%)である。

特別損失は、32万7,515円で前年度に比べ4,191万7,974円(99.2%)減少している。

減少したものは、その他特別損失4,008万4,396円(皆減)、過年度損失183万3,578円(84.8%)である。

#### イ 木曾川市民病院

医業費用は、23億3,672万4,318円で前年度に比べ3,763万2,920円(1.6%)減少している。

減少した主なものは、給与費2,664万9,955円(1.8%)、材料費1,589万5,777円(4.8%)である。給与費が減少した要因は、退職給付費が減少したことなどである。材料費が減少した要因は、患者数の減少により薬品の使用量が減少したことなどであると考えられる。

医業外費用は、8,898万7,149円で前年度に比べ664万668円(8.1%)増加している。

増加した主なものは、雑損失602万4,889円(9.3%)である。

特別損失は、38万7,836円で前年度に比べ4万7,973円(11.0%)減少している。

#### 4 財政状態

本年度の資産総額は、315 億 7,621 万 3,549 円で前年度に比べ 5 億 9,406 万 4,305 円 (1.8%) 減少している。

資産の構成比率は、固定資産 72.5%、流動資産 27.5%である。

次に、負債及び資本の総額は、315 億 7,621 万 3,549 円で、その構成比率は、固定負債 57.4%、流動負債 11.3%、繰延収益 2.7%、資本金 60.8%、剰余金マイナス 32.2%となっている。

##### (1) 固定資産

固定資産総額は、229 億 151 万 6,114 円で前年度に比べ 16 億 1,039 万 4,749 円 (6.6%) 減少している。

固定資産の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分	令和 2 年度	令和 元 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
	円	円	円	%
有形固定資産	22,375,261,986	23,861,994,013	△1,486,732,027	93.8
内				
市民病院	21,141,130,423	22,548,910,207	△1,407,779,784	93.8
木曾川市民病院	1,234,131,563	1,313,083,806	△78,952,243	94.0
無形固定資産	2,219,027	2,219,027	0	100.0
内				
市民病院	1,906,200	1,906,200	0	100.0
木曾川市民病院	312,827	312,827	0	100.0
投資その他の資産	524,035,101	647,697,823	△123,662,722	80.9
内				
市民病院	502,860,431	623,368,401	△120,507,970	80.7
木曾川市民病院	21,174,670	24,329,422	△3,154,752	87.0
合 計	22,901,516,114	24,511,910,863	△1,610,394,749	93.4
内				
市民病院	21,645,897,054	23,174,184,808	△1,528,287,754	93.4
木曾川市民病院	1,255,619,060	1,337,726,055	△82,106,995	93.9

市民病院の固定資産総額は、216 億 4,589 万 7,054 円で前年度に比べ 15 億 2,828 万 7,754 円 (6.6%) 減少している。

有形固定資産では、建設仮勘定 (北館・南館 (A・B 棟) 改修関連工事)、器械及び備品 (全身用 X 線 CT 診断装置、体外式膜型人工肺 (ECMO)、超音波診断装置等) などの増加があるものの、減価償却により、全体として 14 億 777 万 9,784 円 (6.2%) 減少となっている。

投資その他の資産では、長期前払消費税の減少により、1 億 2,050 万 7,970 円 (19.3%) 減

少している。

木曾川市民病院の固定資産総額は、12億5,561万9,060円で前年度に比べ8,210万6,995円(6.1%)減少している。

有形固定資産では、器械及び備品(セントラルモニタシステム、汎用人工呼吸器、多用途透析用監視装置など)、リース資産(FPDシステム(X線診断装置))の増加があるものの、減価償却と器械及び備品の除却により、全体として7,895万2,243円(6.0%)減少となっている。

投資その他の資産では、長期前払消費税の減少により、315万4,752円(13.0%)減少している。

## (2) 流動資産

流動資産総額は、86億7,469万7,435円で前年度に比べ10億1,633万444円(13.3%)増加している。

流動資産の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
現 金 預 金		3,881,848,413	4,077,812,692	△195,964,279	95.2
内 訳	市 民 病 院	2,281,350,661	2,389,200,555	△107,849,894	95.5
	木 曾 川 市 民 病 院	1,600,497,752	1,688,612,137	△88,114,385	94.8
未 収 金		4,704,089,786	3,488,080,288	1,216,009,498	134.9
内 訳	市 民 病 院	4,327,470,545	3,179,904,854	1,147,565,691	136.1
	木 曾 川 市 民 病 院	380,634,946	312,663,548	67,971,398	121.7
貸 倒 引 当 金		△34,360,291	△41,524,107	7,163,816	82.7
内 訳	市 民 病 院	△33,396,357	△40,632,078	7,235,721	82.2
	木 曾 川 市 民 病 院	△963,934	△892,029	△71,905	108.1
貯 蔵 品		122,544,637	133,352,367	△10,807,730	91.9
内 訳	市 民 病 院	114,311,694	124,037,372	△9,725,678	92.2
	木 曾 川 市 民 病 院	8,232,943	9,314,995	△1,082,052	88.4
前 払 費 用		574,890	370,751	204,139	155.1
内 訳	市 民 病 院	573,900	369,761	204,139	155.2
	木 曾 川 市 民 病 院	990	990	0	100.0
前 払 金 (木曾川市民病院)		—	275,000	△275,000	—
合 計		8,674,697,435	7,658,366,991	1,016,330,444	113.3
内 訳	市 民 病 院	6,690,310,443	5,652,880,464	1,037,429,979	118.4
	木 曾 川 市 民 病 院	1,988,402,697	2,009,974,641	△21,571,944	98.9

(注) 1 未収金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。

2 内部取引として未収金から相殺消去された額は令和元年度が4,488,114円、令和2年度が4,015,705円である。

未収金のうち主なものは、市民病院では入院収益22億5,294万3,300円、外来収益10億1,883万2,941円、国・県補助金8億2,463万738円、木曾川市民病院では入院収益2億2,662万3,150円、外来収益7,896万8,984円である。

市民病院の未収金は、前年度に比べ11億4,756万5,691円(36.1%)増加している。増加し

た主なものは、医業未収金のうち、入院収益3億2,407万9,904円(16.8%)、医業外未収金のうち、国・県補助金5億7,546万9,708円(1,602.7%)、その他未収金のうち、県補助金2億1,162万1,000円(12,951.1%)である。

木曾川市民病院の未収金は、前年度に比べ6,797万1,398円(21.7%)増加している。増加した主なものは、医業外未収金のうち、県補助金1,797万1,000円(3,958.4%)、その他未収金のうち、国民健康保険事業特別会計繰入金4,000万(皆増)、国・県補助金1,185万円(皆増)である。

未収金の大半を占める入院収益、外来収益等は、保険請求分と患者負担分である。そのうち保険請求分については、年度末分が通常次年度当初に収入される性質のもので、企業会計上では未収金として整理するが、本質的には滞納分にはあたらない。そこで、5月末現在の医業未収金を前年同月と比較してみると、市民病院では減少し、木曾川市民病院では増加している。現年度(決算年度)分と過年度分に分けてみても、それぞれ市民病院では減少し、木曾川市民病院では増加している。

未収金の中で注視すべきものは患者負担分である。市民病院では、令和2年4月から弁護士法人に債権回収業務を委託するなど、その対策には2病院とも努力されているところであるが、未収金は、経営を悪化させる要因の一つであるので、引き続き、病院一丸となって未収金の発生防止対策と早期収納に努められるよう要望する。

また、貸倒引当金は、金銭債権の貸倒れに備えて将来の回収不納見込額が計上されたものであり、貸倒引当金の取崩しにより不納欠損処理が行われる。

そこで、不納欠損額をみると、市民病院の不納欠損額は415万8,560円で前年度に比べ135万9,612円(24.6%)減少している。木曾川市民病院では、不納欠損処分は行われておらず、不納欠損額は前年度に比べ20万6,010円皆減している。不納欠損処分は、今後とも慎重かつ適正な取扱いを望むものである。

なお、貯蔵品について調査したところ、その受払い及び管理は、良好に行われていた。

### (3) 固定負債

固定負債総額は、181億2,434万1,992円で前年度に比べ8億531万1,212円(4.3%)減少している。

固定負債の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。



区 分		令和 2 年度	令和 元 年度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
企 業 債		12,340,930,086	12,879,959,977	△539,029,891	95.8
内 訳	市 民 病 院	11,842,349,011	12,324,318,063	△481,969,052	96.1
	木 曾 川 市 民 病 院	498,581,075	555,641,914	△57,060,839	89.7
リ ー ス 債 務		763,565,066	1,117,806,285	△354,241,219	68.3
内 訳	市 民 病 院	709,471,049	1,052,655,153	△343,184,104	67.4
	木 曾 川 市 民 病 院	54,094,017	65,151,132	△11,057,115	83.0
退 職 給 付 引 当 金		5,019,846,840	4,931,886,942	87,959,898	101.8
内 訳	市 民 病 院	4,260,100,350	4,193,235,941	66,864,409	101.6
	木 曾 川 市 民 病 院	759,746,490	738,651,001	21,095,489	102.9
合 計		18,124,341,992	18,929,653,204	△805,311,212	95.7
内 訳	市 民 病 院	16,811,920,410	17,570,209,157	△758,288,747	95.7
	木 曾 川 市 民 病 院	1,312,421,582	1,359,444,047	△47,022,465	96.5

市民病院の固定負債総額は、168億1,192万410円で前年度に比べ7億5,828万8,747円(4.3%)減少している。

木曾川市民病院の固定負債総額は、13億1,242万1,582円で前年度に比べ4,702万2,465円(3.5%)減少している。

#### (4) 流動負債

流動負債総額は、35億8,381万5,567円で前年度に比べ2億1,249万1,421円(6.3%)増加している。

流動負債の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
企 業 債		539,029,891	528,915,078	10,114,813	101.9
内 訳	市 民 病 院	481,969,052	472,836,840	9,132,212	101.9
	木 曾 川 市 民 病 院	57,060,839	56,078,238	982,601	101.8
リ ー ス 債 務		374,688,052	419,599,109	△44,911,057	89.3
内 訳	市 民 病 院	343,184,104	392,506,413	△49,322,309	87.4
	木 曾 川 市 民 病 院	31,503,948	27,092,696	4,411,252	116.3
未 払 金		1,835,937,705	1,633,489,571	202,448,134	112.4
内 訳	市 民 病 院	1,646,936,919	1,459,360,053	187,576,866	112.9
	木 曾 川 市 民 病 院	193,016,491	178,617,632	14,398,859	108.1
預 り 金		93,148,655	89,421,056	3,727,599	104.2
内 訳	市 民 病 院	82,976,842	79,916,539	3,060,303	103.8
	木 曾 川 市 民 病 院	10,171,813	9,504,517	667,296	107.0
賞 与 引 当 金		625,344,892	591,917,809	33,427,083	105.6
内 訳	市 民 病 院	543,777,246	516,489,173	27,288,073	105.3
	木 曾 川 市 民 病 院	81,567,646	75,428,636	6,139,010	108.1
法定福利費引当金		115,666,372	107,981,523	7,684,849	107.1
内 訳	市 民 病 院	100,612,834	94,300,934	6,311,900	106.7
	木 曾 川 市 民 病 院	15,053,538	13,680,589	1,372,949	110.0
合 計		3,583,815,567	3,371,324,146	212,491,421	106.3
内 訳	市 民 病 院	3,199,456,997	3,015,409,952	184,047,045	106.1
	木 曾 川 市 民 病 院	388,374,275	360,402,308	27,971,967	107.8

- (注) 1 未払金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。  
2 内部取引として未払金から相殺消去された額は、令和元年度が4,488,114円、令和2年度が4,015,705円である。

市民病院の流動負債総額は、前年度に比べ1億8,404万7,045円(6.1%)増加している。  
市民病院の未払金のうち主なものは、医業未払金では委託料などの経費3億5,881万9,993円、退職手当2億8,733万2,497円、手当などの給与費1億6,710万9,411円、医業外未払金

では企業債利息 938 万 4,327 円、その他未払金では薬品・診療材料購入費 5 億 8,912 万 9,616 円、建設改良未払金では器械及び備品購入費 1 億 4,785 万 1,000 円である。

木曾川市民病院の流動負債総額は、前年度に比べ 2,797 万 1,967 円（7.8%）増加している。

木曾川市民病院の未払金のうち主なものは、医業未払金では退職手当 6,602 万 8,165 円、委託料などの経費 5,524 万 5,240 円、手当などの給与費 2,761 万 2,027 円、医業外未払金では企業債利息 30 万 4,927 円、その他未払金では薬品・診療材料購入費 1,458 万 185 円、建設改良未払金では器械及び備品購入費 1,593 万 750 円である。

#### （5）繰延収益

繰延収益総額は、8 億 5,660 万 2,701 円で前年度に比べ 2 億 6,377 万 8,182 円（44.5%）増加している。

繰延収益の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 2 年 度	令 和 元 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
長 期 前 受 金		2,993,022,968	2,428,033,675	564,989,293	123.3
内 訳	市 民 病 院	2,652,798,689	2,184,433,598	468,365,091	121.4
	木 曾 川 市 民 病 院	340,224,279	243,600,077	96,624,202	139.7
収 益 化 累 計 額		△2,136,420,267	△1,835,209,156	△301,211,111	116.4
内 訳	市 民 病 院	△1,972,440,612	△1,694,998,848	△277,441,764	116.4
	木 曾 川 市 民 病 院	△163,979,655	△140,210,308	△23,769,347	117.0
合 計		856,602,701	592,824,519	263,778,182	144.5
内 訳	市 民 病 院	680,358,077	489,434,750	190,923,327	139.0
	木 曾 川 市 民 病 院	176,244,624	103,389,769	72,854,855	170.5

市民病院では、固定資産の減価償却見合い分の収益化があるものの、新型コロナウイルス感染症関連の県補助金などの増加により、1 億 9,092 万 3,327 円（39.0%）増加している。

木曾川市民病院では、固定資産の減価償却見合い分の収益化があるものの、国民健康保険事業特別会計繰入金や新型コロナウイルス感染症関連の国・県補助金などの増加により 7,285 万 4,855 円（70.5%）増加している。

#### （6）資 本 金

資本金総額は、191 億 8,834 万 8,623 円で前年度と同額である。

## (7) 剰余金

剰余金総額は、マイナス101億7,689万5,334円で前年度に比べ2億6,502万2,696円(2.7%)減少している。

剰余金の内訳及び本年度中の増減状況は、次のとおりである。

区分	令和2年度	令和元年度	増・△減内訳
	円	円	円
資本剰余金	38,633,874	38,633,874	0
内			
市民病院	29,593,874	29,593,874	0
内			
木曾川市民病院	9,040,000	9,040,000	0
利益剰余金	△10,215,529,208	△9,950,506,512	△265,022,696 (当年度純損失)
内			
市民病院	△7,786,851,684	△7,679,312,284	△107,539,400 (当年度純損失)
内			
木曾川市民病院	△2,428,677,524	△2,271,194,228	△157,483,296 (当年度純損失)
合計	△10,176,895,334	△9,911,872,638	△265,022,696
内			
市民病院	△7,757,257,810	△7,649,718,410	△107,539,400
内			
木曾川市民病院	△2,419,637,524	△2,262,154,228	△157,483,296

市民病院当年度未処理欠損金77億8,685万1,684円及び木曾川市民病院当年度未処理欠損金24億2,867万7,524円は、欠損金処理計算書のとおり、全額翌年度へ繰り越される。

## (8) 財務分析

事業の財政状況の良否を示す財務比率をみると、経営の安全性を測る自己資本構成比率は31.3%で前年度に比べ0.6ポイント上昇し、資本投下の適否を測る固定資産対長期資本比率は81.8%で前年度に比べ3.3ポイント下降している。

また、事業の流動性を測る流動比率は242.1%で前年度に比べ14.9ポイント上昇している。

[審査資料 58～63 ページ参照]

## (9) 資金の運用状況

キャッシュ・フロー計算書を基に市民病院、木曾川市民病院の資金運用状況をみると、次のとおりである。

### ア 業務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の業務活動の実施による資金の増減を表している。市民病院では、当年度純損失1億753万9,400円を計上したものの、減価償却費などによ

り 9 億 8,030 万 8,509 円の収入超過となっている。木曾川市民病院では、当年度純損失 1 億 5,748 万 3,296 円を計上し、減価償却費などがあつたものの、2,242 万 5,394 円の支出超過となっている。

#### イ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動による資金の増減を表している。市民病院では、一般会計からの繰入金及び国庫補助金等による収入などがあつたものの、有形固定資産の取得による支出により 2 億 1,709 万 4,882 円の支出超過となっている。木曾川市民病院では、有価固定資産の取得による支出があつたものの、一般会計からの繰入金及び国庫補助金等による収入により 1,855 万 8,452 円の収入超過となっている。

なお、業務活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計で求められるフリー・キャッシュ・フローは、業務活動で獲得した資金から、事業を維持するために必要な資金を差し引くことで、事業者が自由に使用できる余剰資金を表している。市民病院では、業務活動によるキャッシュ・フローの増加が投資活動によるキャッシュ・フローの減少を上回り、7 億 6,321 万 3,627 円の収入超過となっている。木曾川市民病院では、業務活動によるキャッシュ・フローの減少が投資活動によるキャッシュ・フローの増加を上回り、386 万 6,942 円の支出超過となっている。

#### ウ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、資金が不足した場合にどのように資金の調達をしたのか、資金に余裕がある場合にどの程度借入金を返済したのかを表している。市民病院では、企業債の償還及びリース債務の返済による支出により 8 億 7,106 万 3,521 円の支出超過となっている。木曾川市民病院においても同様に 8,424 万 7,443 円の支出超過となっている。

この結果、本年度における資金期末残高は、市民病院では、前年度に比べ 1 億 784 万 9,894 円減の 22 億 8,135 万 661 円、木曾川市民病院では、8,811 万 4,385 円減の 16 億 49 万 7,752 円となっている。

## む す び

以上が令和2年度病院事業会計決算審査の概要であるが、最後に総括的な意見を述べて本審査のむすびとする。

市民病院においては、平成31年2月から行われている北館・南館（A・B棟）改修工事のうち、内視鏡センター、放射線読影室などの移転改修工事が完了したことにより、診察機能などが向上した。また、全身用X線CT診断装置、体外式膜型人工肺（ECMO）、超音波診断装置等の医療機器を導入し、新型コロナウイルス感染症に対応するための設備の充実に努めた。さらに、地域医療連携ネットワークシステム「いちみんネット」の導入により、協力医療機関が市民病院の診察情報をオンラインで参照できる仕組みを構築し、地域医療連携の強化に努めた。

木曾川市民病院においては、引き続き市民病院の後方支援病院として、急性期治療を経過した患者の受け入れや他の医療機関との連携に努めるとともに、地域包括ケアシステムを支える役割を担うべく、地域包括ケア病床を33床から63床に増床し、地域に密着した医療の提供に努めた。このほか、セントラルモニタシステム、汎用人工呼吸器、多用途透析用監視装置等の医療機器を導入し、設備の充実に努めた。

業務状況をみると、総利用患者数は延52万340人で、前年度に比べ6万283人（10.4%）減少した。その内訳をみると、入院患者数は、延19万8,744人で前年度に比べ1万8,974人（8.7%）、外来患者数は、延32万1,596人で前年度に比べ4万1,309人（11.4%）、それぞれ減少した。

経営成績をみると、市民病院では、事業収益は226億7,394万5,834円（前年度比107.5%）、事業費用は227億8,148万5,234円（前年度比99.4%）となり、差し引き1億753万9,400円の純損失となった。木曾川市民病院では、事業収益は22億6,861万6,007円（前年度比97.1%）、事業費用は24億2,609万9,303円（前年度比98.7%）となり、差し引き1億5,748万3,296円の純損失となった。この結果、病院事業全体では、2億6,502万2,696円の純損失となり、前年度19億4,899万8,365円の純損失から16億8,397万5,669円損失が減少した。また、当年度未処理欠損金は102億1,552万9,208円に増加した。

期末の財政状態についてみると、短期の支払い能力を示す流動比率（200%以上が理想）が前年度より14.9ポイント改善し、242.1%となっている。また、財政の長期安全性を示す自己資本構成比率（率が大きいほど望ましい。）は前年度より0.6ポイント改善して31.3%となり、固定資産対長期資本比率（100%以下が望ましい。）は前年度より3.3ポイント改善して81.8%となった。

本年度は新型コロナウイルス感染症患者を受け入れたことで国や県から補助金を受け、当年度純損失は前年度に比べ16億円余損失減となり、上記の指標についても改善している。しかしながら、受診控えや感染状況に応じた入院、手術の制限などに伴う患者数減少など病院経営に及ぼす影響が長期化する恐れがあり、当面の間厳しい状況が続くと懸念される。新型コロナウイルス感染症対応を優先しなければならず経営改善に向けた取組が思うように進まない中、一宮

市病院事業新改革プランの対象期間は本年度で終了となり、目標であった経常収支の黒字化は達成できなかったが、各種指標の分析や類似病院との比較などにより、経営実績を実証的かつ客観的に把握したうえで、新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた具体的な経営改善目標を定め、その達成に向け職員一丸となって取り組まれない。

医療面においては、市民病院は、尾張西部医療圏の基幹的な医療機関として高度急性期・急性期医療を担うとともに、第二種感染症指定医療機関としての役割を果たされたい。木曾川市民病院は、市民病院の後方支援病院として地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床を有効活用し、退院支援・調整や訪問看護等の在宅復帰を目指した医療のさらなる提供に努められたい。

新型コロナウイルス感染症の影響により、日々変化する医療環境への対応が求められるなか、2病院の連携をより密にし、良質かつ効率的な医療の提供に努められることを要望する。





一宮市病院事業会計決算に基づく  
資金不足比率審査意見



令和3年8月23日

一宮市長 中野正康様

一宮市監査委員 和家 淳

一宮市監査委員 岸 澤 修

一宮市監査委員 河 村 弘 保

一宮市監査委員 中 村 かずひと

令和2年度一宮市公営企業会計（病院事業会計）決算に基づく  
資金不足比率審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定により審査に付された令和2年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について審査した結果、次のとおりその意見を提出します。



# 令和2年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率審査意見

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項による資金不足比率審査を一宮市監査委員監査基準に準拠して実施した。その概要及び結果は次のとおりである。

## 第1 審査の対象

令和2年度決算に基づく資金不足比率  
上記比率の算定の基礎となる事項を記載した書類

## 第2 審査の方法等

### 1 主な着眼点

総務省が作成した記載要領及びチェックポイント等に基づき、次の項目を主眼として審査を実施した。

- (1) 各比率の算定の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されているか。
- (2) 比率の算定は適正に行われているか。

### 2 主な実施内容

審査にあたっては、審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について、決算書類その他関係証書類との照合確認を行うとともに、関係職員から説明を聴取するなどの方法により審査を実施した。

### 3 実施場所及び日程

監査事務局による 書類調査	監査事務局	令和3年6月9日～ 同年7月8日
監査委員による本審査	木曾川市民病院会議室	同年7月21日

## 第3 審査の結果

審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、法令に適合し、かつ正確に作成されているものと認められた。

なお、本事業会計に資金不足額はなく、資金不足比率は算出されないため、特に指摘すべき事項はない。

会計名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	経営健全化 基準
病院事業会計	—	—	—	20.0%

(注) 資金不足が発生していない場合は、資金不足比率を「—」で表示する。



# 病院事業会計決算審査資料

# 予 算 決 算

収		入			
科 目	予 算 現 額 (A)		決 算 額 (B)		執行率(%) (B/A)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
<b>市民病院収益の収入</b>	<b>21,781,204,000</b>	<b>90.5</b>	<b>22,706,609,048</b>	<b>90.9</b>	<b>104.2</b>
医 業 収 益	19,280,397,000	80.1	19,291,990,732	77.2	100.1
医 業 外 収 益	2,500,681,000	10.4	3,409,893,775	13.7	136.4
特 別 利 益	126,000	0.0	4,724,541	0.0	3,749.6
<b>木曾川市民病院収益の収入</b>	<b>2,279,989,000</b>	<b>9.5</b>	<b>2,273,080,061</b>	<b>9.1</b>	<b>99.7</b>
医 業 収 益	2,008,118,000	8.3	1,983,885,910	7.9	98.8
医 業 外 収 益	271,671,000	1.1	289,011,014	1.2	106.4
特 別 利 益	200,000	0.0	183,137	0.0	91.6
<b>収益の収入合計</b>	<b>24,061,193,000</b>	<b>100.0</b>	<b>24,979,689,109</b>	<b>100.0</b>	<b>103.8</b>
<b>市民病院資本の収入</b>	<b>448,453,000</b>	<b>82.2</b>	<b>471,405,032</b>	<b>83.0</b>	<b>105.1</b>
負 担 金	256,652,000	47.0	256,651,032	45.2	100.0
寄 附 金	100,000	0.0	0	0.0	0.0
補 助 金	191,701,000	35.1	214,754,000	37.8	112.0
<b>木曾川市民病院資本の収入</b>	<b>97,225,000</b>	<b>17.8</b>	<b>96,624,202</b>	<b>17.0</b>	<b>99.4</b>
負 担 金	35,875,000	6.6	35,874,202	6.3	100.0
補 助 金	21,350,000	3.9	20,750,000	3.7	97.2
繰 入 金	40,000,000	7.3	40,000,000	7.0	100.0
<b>資本の収入合計</b>	<b>545,678,000</b>	<b>100.0</b>	<b>568,029,234</b>	<b>100.0</b>	<b>104.1</b>
<b>(補てん財源)</b>					
当年度分消費税及び地方 消費税資本の収支調整額			868,050		
過年度分損益勘定留保資金			963,406,801		



# 対 照 表

支		出			
科 目	予 算 現 額 (C)		決 算 額 (D)		執行率(%) (D/C)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
<b>市民病院収益の支出</b>	<b>23,069,159,000</b>	<b>90.1</b>	<b>22,802,067,795</b>	<b>90.4</b>	<b>98.8</b>
医 業 費 用	21,904,304,000	85.6	21,652,388,130	85.8	98.8
医 業 外 費 用	1,164,524,000	4.6	1,149,342,986	4.6	98.7
特 別 損 失	231,000	0.0	336,679	0.0	145.7
予 備 費	100,000	0.0	0	0.0	0.0
<b>木曾川市民病院収益の支出</b>	<b>2,521,475,000</b>	<b>9.9</b>	<b>2,430,134,239</b>	<b>9.6</b>	<b>96.4</b>
医 業 費 用	2,472,531,775	9.7	2,388,112,283	9.5	96.6
医 業 外 費 用	48,453,000	0.2	41,631,731	0.2	85.9
特 別 損 失	390,225	0.0	390,225	0.0	100.0
予 備 費	100,000	0.0	0	0.0	0.0
<b>収益の支出合計</b>	<b>25,590,634,000</b>	<b>100.0</b>	<b>25,232,202,034</b>	<b>100.0</b>	<b>98.6</b>
<b>市民病院資本の支出</b>	<b>1,517,131,000</b>	<b>93.3</b>	<b>1,422,747,484</b>	<b>92.9</b>	<b>93.8</b>
建 設 改 良 費	1,044,294,000	64.2	949,910,644	62.0	91.0
企 業 債 償 還 金	472,837,000	29.1	472,836,840	30.9	100.0
<b>木曾川市民病院資本の支出</b>	<b>109,673,000</b>	<b>6.7</b>	<b>109,556,601</b>	<b>7.1</b>	<b>99.9</b>
建 設 改 良 費	53,594,000	3.3	53,478,363	3.5	99.8
企 業 債 償 還 金	56,079,000	3.4	56,078,238	3.7	100.0
<b>資本の支出合計</b>	<b>1,626,804,000</b>	<b>100.0</b>	<b>1,532,304,085</b>	<b>100.0</b>	<b>94.2</b>

# 決 算 両 年

収		入			
科 目	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>市民病院収益の収入</b>	<b>22,706,609,048</b>	<b>90.9</b>	<b>21,124,847,492</b>	<b>90.0</b>	<b>107.5</b>
医 業 収 益	19,291,990,732	77.2	19,475,012,756	83.0	99.1
医 業 外 収 益	3,409,893,775	13.7	1,648,886,736	7.0	206.8
特 別 利 益	4,724,541	0.0	948,000	0.0	498.4
<b>木曾川市民病院収益の収入</b>	<b>2,273,080,061</b>	<b>9.1</b>	<b>2,342,052,511</b>	<b>10.0</b>	<b>97.1</b>
医 業 収 益	1,983,885,910	7.9	2,088,292,570	8.9	95.0
医 業 外 収 益	289,011,014	1.2	253,733,274	1.1	113.9
特 別 利 益	183,137	0.0	26,667	0.0	686.8
<b>収 益 の 収 入 合 計</b>	<b>24,979,689,109</b>	<b>100.0</b>	<b>23,466,900,003</b>	<b>100.0</b>	<b>106.4</b>
<b>市民病院資本の収入</b>	<b>471,405,032</b>	<b>83.0</b>	<b>253,685,814</b>	<b>87.7</b>	<b>185.8</b>
負 担 金	256,651,032	45.2	251,794,018	87.0	101.9
寄 附 金	0	0.0	0	0.0	—
補 助 金	214,754,000	37.8	1,634,000	0.6	13,142.8
投 資 償 還 金	—	—	257,796	0.1	—
<b>木曾川市民病院資本の収入</b>	<b>96,624,202</b>	<b>17.0</b>	<b>35,604,271</b>	<b>12.3</b>	<b>271.4</b>
負 担 金	35,874,202	6.3	34,604,271	12.0	103.7
補 助 金	20,750,000	3.7	—	—	—
繰 入 金	40,000,000	7.0	—	—	—
寄 附 金	—	—	1,000,000	0.3	—
<b>資 本 の 収 入 合 計</b>	<b>568,029,234</b>	<b>100.0</b>	<b>289,290,085</b>	<b>100.0</b>	<b>196.4</b>
<b>(補てん財源)</b>					
当年度分消費税及び地方消費税資本の収支調整額	868,050		2,962,094		
過年度分損益勘定留保資金	963,406,801		1,390,169,059		

# 度 比 較 表

科 目	支		出		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>市民病院収益の支出</b>	<b>22,802,067,795</b>	<b>90.4</b>	<b>22,940,530,814</b>	<b>90.3</b>	<b>99.4</b>
医 業 費 用	21,652,388,130	85.8	21,882,604,598	86.1	98.9
医 業 外 費 用	1,149,342,986	4.6	1,011,916,732	4.0	113.6
特 別 損 失	336,679	0.0	46,009,484	0.2	0.7
<b>木曾川市民病院収益の支出</b>	<b>2,430,134,239</b>	<b>9.6</b>	<b>2,461,267,591</b>	<b>9.7</b>	<b>98.7</b>
医 業 費 用	2,388,112,283	9.5	2,420,276,739	9.5	98.7
医 業 外 費 用	41,631,731	0.2	40,554,801	0.2	102.7
特 別 損 失	390,225	0.0	436,051	0.0	89.5
<b>収 益 の 支 出 合 計</b>	<b>25,232,202,034</b>	<b>100.0</b>	<b>25,401,798,405</b>	<b>100.0</b>	<b>99.3</b>
<b>市民病院資本の支出</b>	<b>1,422,747,484</b>	<b>92.9</b>	<b>1,554,705,477</b>	<b>92.4</b>	<b>91.5</b>
建 設 改 良 費	949,910,644	62.0	1,090,826,768	64.8	87.1
企 業 債 償 還 金	472,836,840	30.9	463,878,709	27.6	101.9
<b>木曾川市民病院資本の支出</b>	<b>109,556,601</b>	<b>7.1</b>	<b>127,715,761</b>	<b>7.6</b>	<b>85.8</b>
建 設 改 良 費	53,478,363	3.5	72,600,038	4.3	73.7
企 業 債 償 還 金	56,078,238	3.7	55,115,723	3.3	101.7
<b>資 本 の 支 出 合 計</b>	<b>1,532,304,085</b>	<b>100.0</b>	<b>1,682,421,238</b>	<b>100.0</b>	<b>91.1</b>

# 比 較 損 益 計 算 書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>医 業 費 用</b>	<b>23,726,327,631</b>	<b>94.1</b>	<b>23,972,231,138</b>	<b>94.5</b>	<b>99.0</b>
給 与 費	11,690,469,470	46.4	11,672,021,992	46.0	100.2
材 料 費	6,748,673,859	26.8	6,588,125,308	26.0	102.4
経 費*	3,198,968,774	12.7	3,655,937,400	14.4	87.5
減 価 償 却 費	2,039,878,086	8.1	1,968,668,397	7.8	103.6
資 産 減 耗 費	4,328,817	0.0	32,773,381	0.1	13.2
研 究 研 修 費	44,008,625	0.2	54,704,660	0.2	80.4
<b>医 業 外 費 用</b>	<b>1,480,303,934</b>	<b>5.9</b>	<b>1,359,317,395</b>	<b>5.4</b>	<b>108.9</b>
支 払 利 息	216,983,278	0.9	227,037,575	0.9	95.6
患 者 外 給 食 費	321,590	0.0	346,820	0.0	92.7
保 育 費	60,752,079	0.2	71,698,636	0.3	84.7
長 期 前 払 消 費 税 償 却	172,760,389	0.7	151,220,012	0.6	114.2
雑 損 失	1,029,486,598	4.1	909,014,352	3.6	113.3
<b>特 別 損 失</b>	<b>715,351</b>	<b>0.0</b>	<b>42,681,298</b>	<b>0.2</b>	<b>1.7</b>
過 年 度 損 失	715,351	0.0	2,596,902	0.0	27.5
そ の 他 特 別 損 失	—	—	40,084,396	0.2	—
<b>費 用 合 計</b>	<b>25,207,346,916</b>	<b>100.0</b>	<b>25,374,229,831</b>	<b>100.0</b>	<b>99.3</b>
<b>医 業 利 益</b>	—		—		
<b>経 常 利 益</b>	—		—		
<b>純 利 益</b>	—		—		

(注) \*印の科目は市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計と

( 総 合 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>医 業 収 益</b>	<b>21,246,587,290</b>	<b>85.2</b>	<b>21,530,304,105</b>	<b>91.9</b>	<b>98.7</b>
入 院 収 益	14,014,175,605	56.2	14,005,579,900	59.8	100.1
外 来 収 益*	6,930,814,442	27.8	7,215,515,846	30.8	96.1
その他医業収益*	301,597,243	1.2	309,208,359	1.3	97.5
<b>医 業 外 収 益</b>	<b>3,690,840,706</b>	<b>14.8</b>	<b>1,893,952,694</b>	<b>8.1</b>	<b>194.9</b>
受 取 利 息	457,532	0.0	683,587	0.0	66.9
補 助 金	1,824,988,738	7.3	57,097,652	0.2	3,196.3
負担金・交付金	1,372,540,862	5.5	1,402,409,611	6.0	97.9
患者外給食収益	587,881	0.0	583,364	0.0	100.8
保 育 収 益	8,274,741	0.0	8,887,161	0.0	93.1
長期前受金戻入	304,646,052	1.2	298,893,463	1.3	101.9
その他医業外収益	179,344,900	0.7	125,396,864	0.5	143.0
雑 収 益	—	—	992	0.0	—
<b>特 別 利 益</b>	<b>4,896,224</b>	<b>0.0</b>	<b>974,667</b>	<b>0.0</b>	<b>502.3</b>
過 年 度 収 益	379,063	0.0	254,667	0.0	148.8
その他特別利益	4,517,161	0.0	720,000	0.0	627.4
<b>収 益 合 計</b>	<b>24,942,324,220</b>	<b>100.0</b>	<b>23,425,231,466</b>	<b>100.0</b>	<b>106.5</b>
<b>医 業 損 失</b>	<b>2,479,740,341</b>		<b>2,441,927,033</b>		
<b>経 常 損 失</b>	<b>269,203,569</b>		<b>1,907,291,734</b>		
<b>純 損 失</b>	<b>265,022,696</b>		<b>1,948,998,365</b>		

なっている。

# 比較損益計算書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 ( 円 )	構 成 比 ( % )	金 額 ( 円 )	構 成 比 ( % )	
<b>医 業 費 用</b>	<b>21,389,840,934</b>	<b>93.9</b>	<b>21,602,978,568</b>	<b>94.2</b>	<b>99.0</b>
給 与 費	10,202,280,251	44.8	10,157,182,818	44.3	100.4
材 料 費	6,434,612,067	28.2	6,258,167,739	27.3	102.8
経 費	2,789,028,547	12.2	3,259,222,390	14.2	85.6
減 価 償 却 費	1,919,344,107	8.4	1,853,455,928	8.1	103.6
資 産 減 耗 費	2,886,318	0.0	24,294,388	0.1	11.9
研 究 研 修 費	41,689,644	0.2	50,655,305	0.2	82.3
<b>医 業 外 費 用</b>	<b>1,391,316,785</b>	<b>6.1</b>	<b>1,276,970,914</b>	<b>5.6</b>	<b>109.0</b>
支 払 利 息	205,885,469	0.9	214,963,624	0.9	95.8
患 者 外 給 食 費	321,590	0.0	346,820	0.0	92.7
保 育 費	60,752,079	0.3	71,698,636	0.3	84.7
長 期 前 払 消 費 税 償 却	165,422,346	0.7	145,473,890	0.6	113.7
雑 損 失	958,935,301	4.2	844,487,944	3.7	113.6
<b>特 別 損 失</b>	<b>327,515</b>	<b>0.0</b>	<b>42,245,489</b>	<b>0.2</b>	<b>0.8</b>
過 年 度 損 失	327,515	0.0	2,161,093	0.0	15.2
そ の 他 特 別 損 失	—	—	40,084,396	0.2	—
<b>費 用 合 計</b>	<b>22,781,485,234</b>	<b>100.0</b>	<b>22,922,194,971</b>	<b>100.0</b>	<b>99.4</b>
<b>医 業 利 益</b>	—		—		
<b>経 常 利 益</b>	—		—		
<b>純 利 益</b>	—		—		

# ( 市 民 病 院 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 ( 円 )	構 成 比 ( % )	金 額 ( 円 )	構 成 比 ( % )	
<b>医 業 収 益</b>	<b>19,267,271,067</b>	<b>85.0</b>	<b>19,451,466,902</b>	<b>92.2</b>	<b>99.1</b>
入 院 収 益	12,619,727,172	55.7	12,541,134,200	59.5	100.6
外 来 収 益	6,388,726,672	28.2	6,649,177,310	31.5	96.1
その他医業収益	258,817,223	1.1	261,155,392	1.2	99.1
<b>医 業 外 収 益</b>	<b>3,401,961,680</b>	<b>15.0</b>	<b>1,640,566,937</b>	<b>7.8</b>	<b>207.4</b>
受 取 利 息	17,675	0.0	264,921	0.0	6.7
補 助 金	1,793,647,738	7.9	56,643,652	0.3	3,166.5
負担金・交付金	1,153,256,788	5.1	1,178,545,014	5.6	97.9
患者外給食収益	587,881	0.0	583,364	0.0	100.8
保 育 収 益	8,274,741	0.0	8,887,161	0.0	93.1
長期前受金戻入	280,876,705	1.2	276,966,052	1.3	101.4
その他医業外収益	165,300,152	0.7	118,676,773	0.6	139.3
<b>特 別 利 益</b>	<b>4,713,087</b>	<b>0.0</b>	<b>948,000</b>	<b>0.0</b>	<b>497.2</b>
過 年 度 収 益	195,926	0.0	228,000	0.0	85.9
その他特別利益	4,517,161	0.0	720,000	0.0	627.4
<b>収 益 合 計</b>	<b>22,673,945,834</b>	<b>100.0</b>	<b>21,092,981,839</b>	<b>100.0</b>	<b>107.5</b>
<b>医 業 損 失</b>	<b>2,122,569,867</b>		<b>2,151,511,666</b>		
<b>経 常 損 失</b>	<b>111,924,972</b>		<b>1,787,915,643</b>		
<b>純 損 失</b>	<b>107,539,400</b>		<b>1,829,213,132</b>		

# 比較損益計算書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>医業費用</b>	<b>2,336,724,318</b>	<b>96.3</b>	<b>2,374,357,238</b>	<b>96.6</b>	<b>98.4</b>
給 与 費	1,488,189,219	61.3	1,514,839,174	61.7	98.2
材 料 費	314,061,792	12.9	329,957,569	13.4	95.2
経 費	410,177,848	16.9	401,819,678	16.4	102.1
減 価 償 却 費	120,533,979	5.0	115,212,469	4.7	104.6
資 産 減 耗 費	1,442,499	0.1	8,478,993	0.3	17.0
研 究 研 修 費	2,318,981	0.1	4,049,355	0.2	57.3
<b>医業外費用</b>	<b>88,987,149</b>	<b>3.7</b>	<b>82,346,481</b>	<b>3.4</b>	<b>108.1</b>
支 払 利 息	11,097,809	0.5	12,073,951	0.5	91.9
長期前払消費税償却	7,338,043	0.3	5,746,122	0.2	127.7
雑 損 失	70,551,297	2.9	64,526,408	2.6	109.3
<b>特別損失</b>	<b>387,836</b>	<b>0.0</b>	<b>435,809</b>	<b>0.0</b>	<b>89.0</b>
過 年 度 損 失	387,836	0.0	435,809	0.0	89.0
<b>費用合計</b>	<b>2,426,099,303</b>	<b>100.0</b>	<b>2,457,139,528</b>	<b>100.0</b>	<b>98.7</b>
<b>医業利益</b>	-		-		
<b>経常利益</b>	-		-		
<b>純利益</b>	-		-		



# ( 木 曾 川 市 民 病 院 )

貸 方					
科 目	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		前 年 度 対 比 ( % )
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>医 業 収 益</b>	<b>1,979,553,844</b>	<b>87.3</b>	<b>2,083,941,871</b>	<b>89.2</b>	<b>95.0</b>
入院収益	1,394,448,433	61.5	1,464,445,700	62.7	95.2
外来収益	542,218,030	23.9	566,517,756	24.2	95.7
その他医業収益	42,887,381	1.9	52,978,415	2.3	81.0
<b>医 業 外 収 益</b>	<b>288,879,026</b>	<b>12.7</b>	<b>253,385,757</b>	<b>10.8</b>	<b>114.0</b>
受取利息	439,857	0.0	418,666	0.0	105.1
補助金	31,341,000	1.4	454,000	0.0	6,903.3
負担金・交付金	219,284,074	9.7	223,864,597	9.6	98.0
長期前受金戻入	23,769,347	1.0	21,927,411	0.9	108.4
その他医業外収益	14,044,748	0.6	6,720,091	0.3	209.0
雑収益	—	—	992	0.0	—
<b>特 別 利 益</b>	<b>183,137</b>	<b>0.0</b>	<b>26,667</b>	<b>0.0</b>	<b>686.8</b>
過年度収益	183,137	0.0	26,667	0.0	686.8
<b>収 益 合 計</b>	<b>2,268,616,007</b>	<b>100.0</b>	<b>2,337,354,295</b>	<b>100.0</b>	<b>97.1</b>
<b>医 業 損 失</b>	<b>357,170,474</b>		<b>290,415,367</b>		
<b>経 常 損 失</b>	<b>157,278,597</b>		<b>119,376,091</b>		
<b>純 損 失</b>	<b>157,483,296</b>		<b>119,785,233</b>		

## 収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和2年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)
<b>医業費用</b>	<b>11,690,543,470</b>	<b>9,937,428,357</b>	<b>56,957,763</b>	<b>2,041,398,041</b>	<b>23,726,327,631</b>	<b>94.1</b>
給与費	11,690,469,470	—	—	—	11,690,469,470	46.4
材料費	—	6,748,673,859	—	—	6,748,673,859	26.8
経費*	74,000	3,141,937,011	56,957,763	—	3,198,968,774	12.7
減価償却費	—	—	—	2,039,878,086	2,039,878,086	8.1
資産減耗費	—	2,808,862	—	1,519,955	4,328,817	0.0
研究研修費	—	44,008,625	—	—	44,008,625	0.2
<b>医業外費用</b>	<b>—</b>	<b>62,544,299</b>	<b>1,244,999,246</b>	<b>172,760,389</b>	<b>1,480,303,934</b>	<b>5.9</b>
支払利息	—	—	216,983,278	—	216,983,278	0.9
患者外給食費	—	321,590	—	—	321,590	0.0
保育費	—	60,742,309	9,770	—	60,752,079	0.2
長期前払消費税償却	—	—	—	172,760,389	172,760,389	0.7
雑損失	—	1,480,400	1,028,006,198	—	1,029,486,598	4.1
<b>特別損失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>715,351</b>	<b>—</b>	<b>715,351</b>	<b>0.0</b>
過年度損失	—	—	715,351	—	715,351	0.0
その他特別損失	—	—	—	—	—	—
<b>合計</b>	<b>11,690,543,470</b>	<b>9,999,972,656</b>	<b>1,302,672,360</b>	<b>2,214,158,430</b>	<b>25,207,346,916</b>	<b>100.0</b>
<b>構成比(%)</b>	<b>46.4</b>	<b>39.7</b>	<b>5.2</b>	<b>8.8</b>	<b>100.0</b>	

- (注)1 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引  
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用  
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失  
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期
- 2 令和元年度の物件費には、非常勤再雇用嘱託職員、非常勤臨時職員賃金等4億7,662万9,919円が含まれる。
- 3 \*印の科目は市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計となっている。

## 両年度比較表（総合）

令和元年度						前年度 対 比 (%)
人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)	
<b>11,195,614,073</b>	<b>10,715,144,754</b>	<b>61,069,487</b>	<b>2,000,402,824</b>	<b>23,972,231,138</b>	<b>94.5</b>	<b>99.0</b>
11,195,392,073	476,629,919	—	—	11,672,021,992	46.0	100.2
—	6,588,125,308	—	—	6,588,125,308	26.0	102.4
222,000	3,594,645,913	61,069,487	—	3,655,937,400	14.4	87.5
—	—	—	1,968,668,397	1,968,668,397	7.8	103.6
—	1,038,954	—	31,734,427	32,773,381	0.1	13.2
—	54,704,660	—	—	54,704,660	0.2	80.4
<b>—</b>	<b>72,654,412</b>	<b>1,135,385,767</b>	<b>151,277,216</b>	<b>1,359,317,395</b>	<b>5.4</b>	<b>108.9</b>
—	—	227,037,575	—	227,037,575	0.9	95.6
—	346,820	—	—	346,820	0.0	92.7
—	71,688,866	9,770	—	71,698,636	0.3	84.7
—	—	—	151,220,012	151,220,012	0.6	114.2
—	618,726	908,338,422	57,204	909,014,352	3.6	113.3
<b>—</b>	<b>37,628,833</b>	<b>2,596,902</b>	<b>2,455,563</b>	<b>42,681,298</b>	<b>0.2</b>	<b>1.7</b>
—	—	2,596,902	—	2,596,902	0.0	27.5
—	37,628,833	—	2,455,563	40,084,396	0.2	—
<b>11,195,614,073</b>	<b>10,825,427,999</b>	<b>1,199,052,156</b>	<b>2,154,135,603</b>	<b>25,374,229,831</b>	<b>100.0</b>	<b>99.3</b>
<b>44.1</b>	<b>42.7</b>	<b>4.7</b>	<b>8.5</b>	<b>100.0</b>		

当金繰入額、報酬

及び医療事故に対する和解金)、過年度損失、貸倒引当金繰入額  
前払消費税償却、固定資産売却損

## 収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和2年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)
<b>医業費用</b>	<b>10,202,354,251</b>	<b>9,217,663,182</b>	<b>49,952,703</b>	<b>1,919,870,798</b>	<b>21,389,840,934</b>	<b>93.9</b>
給与費	10,202,280,251	—	—	—	10,202,280,251	44.8
材料費	—	6,434,612,067	—	—	6,434,612,067	28.2
経費	74,000	2,739,001,844	49,952,703	—	2,789,028,547	12.2
減価償却費	—	—	—	1,919,344,107	1,919,344,107	8.4
資産減耗費	—	2,359,627	—	526,691	2,886,318	0.0
研究研修費	—	41,689,644	—	—	41,689,644	0.2
<b>医業外費用</b>	<b>—</b>	<b>62,415,799</b>	<b>1,163,478,640</b>	<b>165,422,346</b>	<b>1,391,316,785</b>	<b>6.1</b>
支払利息	—	—	205,885,469	—	205,885,469	0.9
患者外給食費	—	321,590	—	—	321,590	0.0
保育費	—	60,742,309	9,770	—	60,752,079	0.3
長期前払消費税償却	—	—	—	165,422,346	165,422,346	0.7
雑損失	—	1,351,900	957,583,401	—	958,935,301	4.2
<b>特別損失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>327,515</b>	<b>—</b>	<b>327,515</b>	<b>0.0</b>
過年度損失	—	—	327,515	—	327,515	0.0
その他特別損失	—	—	—	—	—	—
<b>合計</b>	<b>10,202,354,251</b>	<b>9,280,078,981</b>	<b>1,213,758,858</b>	<b>2,085,293,144</b>	<b>22,781,485,234</b>	<b>100.0</b>
<b>構成比 (%)</b>	<b>44.8</b>	<b>40.7</b>	<b>5.3</b>	<b>9.2</b>	<b>100.0</b>	

(注) 1 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引  
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用  
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失  
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期  
2 令和元年度の物件費には、非常勤再雇用嘱託職員、非常勤臨時職員賃金等4億252万7,765円が含まれる。

## 両年度比較表(市民病院)

令和元年度						前年度 対 比 (%)
人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合 計 (円)	構成比 (%)	
<b>9,754,877,053</b>	<b>9,916,660,674</b>	<b>54,435,363</b>	<b>1,877,005,478</b>	<b>21,602,978,568</b>	<b>94.2</b>	<b>99.0</b>
9,754,655,053	402,527,765	—	—	10,157,182,818	44.3	100.4
—	6,258,167,739	—	—	6,258,167,739	27.3	102.8
222,000	3,204,565,027	54,435,363	—	3,259,222,390	14.2	85.6
—	—	—	1,853,455,928	1,853,455,928	8.1	103.6
—	744,838	—	23,549,550	24,294,388	0.1	11.9
—	50,655,305	—	—	50,655,305	0.2	82.3
<b>—</b>	<b>72,654,412</b>	<b>1,058,785,408</b>	<b>145,531,094</b>	<b>1,276,970,914</b>	<b>5.6</b>	<b>109.0</b>
—	—	214,963,624	—	214,963,624	0.9	95.8
—	346,820	—	—	346,820	0.0	92.7
—	71,688,866	9,770	—	71,698,636	0.3	84.7
—	—	—	145,473,890	145,473,890	0.6	113.7
—	618,726	843,812,014	57,204	844,487,944	3.7	113.6
<b>—</b>	<b>37,628,833</b>	<b>2,161,093</b>	<b>2,455,563</b>	<b>42,245,489</b>	<b>0.2</b>	<b>0.8</b>
—	—	2,161,093	—	2,161,093	0.0	15.2
—	37,628,833	—	2,455,563	40,084,396	0.2	—
<b>9,754,877,053</b>	<b>10,026,943,919</b>	<b>1,115,381,864</b>	<b>2,024,992,135</b>	<b>22,922,194,971</b>	<b>100.0</b>	<b>99.4</b>
<b>42.6</b>	<b>43.7</b>	<b>4.9</b>	<b>8.8</b>	<b>100.0</b>		

当金繰入額)、報酬

及び医療事故に対する和解金)、過年度損失、貸倒引当金繰入額  
前払消費税償却、固定資産売却損

## 収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和2年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)
<b>医業費用</b>	<b>1,488,189,219</b>	<b>720,002,796</b>	<b>7,005,060</b>	<b>121,527,243</b>	<b>2,336,724,318</b>	<b>96.3</b>
給与費	1,488,189,219	—	—	—	1,488,189,219	61.3
材料費	—	314,061,792	—	—	314,061,792	12.9
経費	—	403,172,788	7,005,060	—	410,177,848	16.9
減価償却費	—	—	—	120,533,979	120,533,979	5.0
資産減耗費	—	449,235	—	993,264	1,442,499	0.1
研究研修費	—	2,318,981	—	—	2,318,981	0.1
<b>医業外費用</b>	<b>—</b>	<b>128,500</b>	<b>81,520,606</b>	<b>7,338,043</b>	<b>88,987,149</b>	<b>3.7</b>
支払利息	—	—	11,097,809	—	11,097,809	0.5
長期前払 消費税償却	—	—	—	7,338,043	7,338,043	0.3
雑損失	—	128,500	70,422,797	—	70,551,297	2.9
<b>特別損失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>387,836</b>	<b>—</b>	<b>387,836</b>	<b>0.0</b>
過年度損失	—	—	387,836	—	387,836	0.0
<b>合計</b>	<b>1,488,189,219</b>	<b>720,131,296</b>	<b>88,913,502</b>	<b>128,865,286</b>	<b>2,426,099,303</b>	<b>100.0</b>
<b>構成比(%)</b>	<b>61.3</b>	<b>29.7</b>	<b>3.7</b>	<b>5.3</b>	<b>100.0</b>	

(注)1 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引  
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用  
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失)、  
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期  
2 令和元年度の物件費には、非常勤再雇用嘱託職員、非常勤臨時職員賃金等7,410万2,154円が含まれる。

## 両年度比較表（木曾川市民病院）

令和元年度						前年度 対 比 (%)
人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合 計 (円)	構成比 (%)	
<b>1,440,737,020</b>	<b>803,588,748</b>	<b>6,634,124</b>	<b>123,397,346</b>	<b>2,374,357,238</b>	<b>96.6</b>	<b>98.4</b>
1,440,737,020	74,102,154	—	—	1,514,839,174	61.7	98.2
—	329,957,569	—	—	329,957,569	13.4	95.2
—	395,185,554	6,634,124	—	401,819,678	16.4	102.1
—	—	—	115,212,469	115,212,469	4.7	104.6
—	294,116	—	8,184,877	8,478,993	0.3	17.0
—	4,049,355	—	—	4,049,355	0.2	57.3
<b>—</b>	<b>—</b>	<b>76,600,359</b>	<b>5,746,122</b>	<b>82,346,481</b>	<b>3.4</b>	<b>108.1</b>
—	—	12,073,951	—	12,073,951	0.5	91.9
—	—	—	5,746,122	5,746,122	0.2	127.7
—	—	64,526,408	—	64,526,408	2.6	109.3
<b>—</b>	<b>—</b>	<b>435,809</b>	<b>—</b>	<b>435,809</b>	<b>0.0</b>	<b>89.0</b>
—	—	435,809	—	435,809	0.0	89.0
<b>1,440,737,020</b>	<b>803,588,748</b>	<b>83,670,292</b>	<b>129,143,468</b>	<b>2,457,139,528</b>	<b>100.0</b>	<b>98.7</b>
<b>58.6</b>	<b>32.7</b>	<b>3.4</b>	<b>5.3</b>	<b>100.0</b>		

当金繰入額)

過年度損失、貸倒引当金繰入額  
前払消費税償却、固定資産売却損

# 比 較 貸 借 対 照 表

科 目	借		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 資 産</b>	<b>22,901,516,114</b>	<b>72.5</b>	<b>24,511,910,863</b>	<b>76.2</b>	<b>93.4</b>
土 地	1,295,606,294	4.1	1,295,606,294	4.0	100.0
建 物	11,331,380,212	35.9	11,717,645,009	36.4	96.7
建物付属設備	4,792,130,403	15.2	5,448,431,413	16.9	88.0
構 築 物	294,748,631	0.9	319,534,914	1.0	92.2
器械及び備品	2,715,025,007	8.6	3,003,223,879	9.3	90.4
車 両 運 搬 具	6,657,874	0.0	9,577,314	0.0	69.5
リ ー ス 資 産	1,253,680,558	4.0	1,661,814,350	5.2	75.4
その他有形固定資産	29,593,874	0.1	29,593,874	0.1	100.0
建 設 仮 勘 定	656,439,133	2.1	376,566,966	1.2	174.3
電 話 加 入 権	2,219,027	0.0	2,219,027	0.0	100.0
出 資 金	620,000	0.0	620,000	0.0	100.0
敷 金	11,186,000	0.0	11,186,000	0.0	100.0
長期前払消費税	512,229,101	1.6	635,891,823	2.0	80.6
<b>流 動 資 産</b>	<b>8,674,697,435</b>	<b>27.5</b>	<b>7,658,366,991</b>	<b>23.8</b>	<b>113.3</b>
現 金 預 金	3,881,848,413	12.3	4,077,812,692	12.7	95.2
未 収 金 *	4,704,089,786	14.9	3,488,080,288	10.8	134.9
貸 倒 引 当 金	△ 34,360,291	△ 0.1	△ 41,524,107	△ 0.1	82.7
貯 蔵 品	122,544,637	0.4	133,352,367	0.4	91.9
前 払 費 用	574,890	0.0	370,751	0.0	155.1
前 払 金	—	—	275,000	0.0	—
<b>資 産 合 計</b>	<b>31,576,213,549</b>	<b>100.0</b>	<b>32,170,277,854</b>	<b>100.0</b>	<b>98.2</b>

(注) \*印の科目は市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計と



# ( 総 合 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 負 債</b>	<b>18,124,341,992</b>	<b>57.4</b>	<b>18,929,653,204</b>	<b>58.8</b>	<b>95.7</b>
企 業 債	12,340,930,086	39.1	12,879,959,977	40.0	95.8
リ ー ス 債 務	763,565,066	2.4	1,117,806,285	3.5	68.3
退 職 給 付 引 当 金	5,019,846,840	15.9	4,931,886,942	15.3	101.8
<b>流 動 負 債</b>	<b>3,583,815,567</b>	<b>11.3</b>	<b>3,371,324,146</b>	<b>10.5</b>	<b>106.3</b>
企 業 債	539,029,891	1.7	528,915,078	1.6	101.9
リ ー ス 債 務	374,688,052	1.2	419,599,109	1.3	89.3
未 払 金 *	1,835,937,705	5.8	1,633,489,571	5.1	112.4
預 り 金	93,148,655	0.3	89,421,056	0.3	104.2
賞 与 引 当 金	625,344,892	2.0	591,917,809	1.8	105.6
法 定 福 利 費 引 当 金	115,666,372	0.4	107,981,523	0.3	107.1
<b>繰 延 収 益</b>	<b>856,602,701</b>	<b>2.7</b>	<b>592,824,519</b>	<b>1.8</b>	<b>144.5</b>
長 期 前 受 金	2,993,022,968	9.5	2,428,033,675	7.5	123.3
収 益 化 累 計 額	△ 2,136,420,267	△ 6.8	△ 1,835,209,156	△ 5.7	116.4
<b>資 本 金</b>	<b>19,188,348,623</b>	<b>60.8</b>	<b>19,188,348,623</b>	<b>59.6</b>	<b>100.0</b>
自 己 資 本 金	19,188,348,623	60.8	19,188,348,623	59.6	100.0
<b>剰 余 金</b>	<b>△ 10,176,895,334</b>	<b>△ 32.2</b>	<b>△ 9,911,872,638</b>	<b>△ 30.8</b>	<b>102.7</b>
資 本 剰 余 金	38,633,874	0.1	38,633,874	0.1	100.0
利 益 剰 余 金	△ 10,215,529,208	△ 32.4	△ 9,950,506,512	△ 30.9	102.7
(当年度純利益・△純損失)	(△ 265,022,696)		(△ 1,948,998,365)		
<b>負 債 ・ 資 本 合 計</b>	<b>31,576,213,549</b>	<b>100.0</b>	<b>32,170,277,854</b>	<b>100.0</b>	<b>98.2</b>

なっている。

# 比較貸借対照表

科 目	借		方		前年度 対比(%)
	令和2年度		令和元年度		
	金額(円)	構成比(%)	金額(円)	構成比(%)	
<b>固定資産</b>	<b>21,645,897,054</b>	<b>76.4</b>	<b>23,174,184,808</b>	<b>80.4</b>	<b>93.4</b>
土地	1,282,261,344	4.5	1,282,261,344	4.4	100.0
建物	10,607,330,262	37.4	10,952,886,444	38.0	96.8
建物附属設備	4,601,737,020	16.2	5,235,851,866	18.2	87.9
構築物	273,877,186	1.0	297,061,654	1.0	92.2
器械及び備品	2,537,923,923	9.0	2,809,943,939	9.7	90.3
車両運搬具	5,097,233	0.0	7,602,743	0.0	67.0
リース資産	1,146,870,448	4.0	1,557,141,377	5.4	73.7
その他有形固定資産	29,593,874	0.1	29,593,874	0.1	100.0
建設仮勘定	656,439,133	2.3	376,566,966	1.3	174.3
電話加入権	1,906,200	0.0	1,906,200	0.0	100.0
出資金	620,000	0.0	620,000	0.0	100.0
敷金	11,186,000	0.0	11,186,000	0.0	100.0
長期前払消費税	491,054,431	1.7	611,562,401	2.1	80.3
<b>流動資産</b>	<b>6,690,310,443</b>	<b>23.6</b>	<b>5,652,880,464</b>	<b>19.6</b>	<b>118.4</b>
現金預金	2,281,350,661	8.1	2,389,200,555	8.3	95.5
未収金	4,327,470,545	15.3	3,179,904,854	11.0	136.1
貸倒引当金	△ 33,396,357	△ 0.1	△ 40,632,078	△ 0.1	82.2
貯蔵品	114,311,694	0.4	124,037,372	0.4	92.2
前払費用	573,900	0.0	369,761	0.0	155.2
<b>資産合計</b>	<b>28,336,207,497</b>	<b>100.0</b>	<b>28,827,065,272</b>	<b>100.0</b>	<b>98.3</b>

# ( 市 民 病 院 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 負 債</b>	<b>16,811,920,410</b>	<b>59.3</b>	<b>17,570,209,157</b>	<b>61.0</b>	<b>95.7</b>
企 業 債	11,842,349,011	41.8	12,324,318,063	42.8	96.1
リ ー ス 債 務	709,471,049	2.5	1,052,655,153	3.7	67.4
退 職 給 付 引 当 金	4,260,100,350	15.0	4,193,235,941	14.5	101.6
<b>流 動 負 債</b>	<b>3,199,456,997</b>	<b>11.3</b>	<b>3,015,409,952</b>	<b>10.5</b>	<b>106.1</b>
企 業 債	481,969,052	1.7	472,836,840	1.6	101.9
リ ー ス 債 務	343,184,104	1.2	392,506,413	1.4	87.4
未 払 金	1,646,936,919	5.8	1,459,360,053	5.1	112.9
預 り 金	82,976,842	0.3	79,916,539	0.3	103.8
賞 与 引 当 金	543,777,246	1.9	516,489,173	1.8	105.3
法 定 福 利 費 引 当 金	100,612,834	0.4	94,300,934	0.3	106.7
<b>繰 延 収 益</b>	<b>680,358,077</b>	<b>2.4</b>	<b>489,434,750</b>	<b>1.7</b>	<b>139.0</b>
長 期 前 受 金	2,652,798,689	9.4	2,184,433,598	7.6	121.4
収 益 化 累 計 額	△ 1,972,440,612	△ 7.0	△ 1,694,998,848	△ 5.9	116.4
<b>資 本 金</b>	<b>15,401,729,823</b>	<b>54.4</b>	<b>15,401,729,823</b>	<b>53.4</b>	<b>100.0</b>
自 己 資 本 金	15,401,729,823	54.4	15,401,729,823	53.4	100.0
<b>剰 余 金</b>	<b>△ 7,757,257,810</b>	<b>△ 27.4</b>	<b>△ 7,649,718,410</b>	<b>△ 26.5</b>	<b>101.4</b>
資 本 剰 余 金	29,593,874	0.1	29,593,874	0.1	100.0
利 益 剰 余 金	△ 7,786,851,684	△ 27.5	△ 7,679,312,284	△ 26.6	101.4
(当年度純利益・△純損失)	(△ 107,539,400)		(△ 1,829,213,132)		
<b>負 債 ・ 資 本 合 計</b>	<b>28,336,207,497</b>	<b>100.0</b>	<b>28,827,065,272</b>	<b>100.0</b>	<b>98.3</b>

# 比較貸借対照表

科 目	借		方		前年度 対比(%)
	令和2年度		令和元年度		
	金額(円)	構成比(%)	金額(円)	構成比(%)	
<b>固定資産</b>	<b>1,255,619,060</b>	<b>38.7</b>	<b>1,337,726,055</b>	<b>40.0</b>	<b>93.9</b>
土 地	13,344,950	0.4	13,344,950	0.4	100.0
建 物	724,049,950	22.3	764,758,565	22.8	94.7
建物付属設備	190,393,383	5.9	212,579,547	6.4	89.6
構 築 物	20,871,445	0.6	22,473,260	0.7	92.9
器械及び備品	177,101,084	5.5	193,279,940	5.8	91.6
車両運搬具	1,560,641	0.0	1,974,571	0.1	79.0
リース資産	106,810,110	3.3	104,672,973	3.1	102.0
電話加入権	312,827	0.0	312,827	0.0	100.0
長期前払消費税	21,174,670	0.7	24,329,422	0.7	87.0
<b>流動資産</b>	<b>1,988,402,697</b>	<b>61.3</b>	<b>2,009,974,641</b>	<b>60.0</b>	<b>98.9</b>
現金預金	1,600,497,752	49.3	1,688,612,137	50.4	94.8
未 収 金	380,634,946	11.7	312,663,548	9.3	121.7
貸倒引当金	△ 963,934	0.0	△ 892,029	0.0	108.1
貯 蔵 品	8,232,943	0.3	9,314,995	0.3	88.4
前 払 費 用	990	0.0	990	0.0	100.0
前 払 金	—	—	275,000	0.0	—
<b>資産合計</b>	<b>3,244,021,757</b>	<b>100.0</b>	<b>3,347,700,696</b>	<b>100.0</b>	<b>96.9</b>

# ( 木 曾 川 市 民 病 院 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 2 年 度		令 和 元 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 負 債</b>	<b>1,312,421,582</b>	<b>40.5</b>	<b>1,359,444,047</b>	<b>40.6</b>	<b>96.5</b>
企 業 債	498,581,075	15.4	555,641,914	16.6	89.7
リ ー ス 債 務	54,094,017	1.7	65,151,132	1.9	83.0
退 職 給 付 引 当 金	759,746,490	23.4	738,651,001	22.1	102.9
<b>流 動 負 債</b>	<b>388,374,275</b>	<b>12.0</b>	<b>360,402,308</b>	<b>10.8</b>	<b>107.8</b>
企 業 債	57,060,839	1.8	56,078,238	1.7	101.8
リ ー ス 債 務	31,503,948	1.0	27,092,696	0.8	116.3
未 払 金	193,016,491	5.9	178,617,632	5.3	108.1
預 り 金	10,171,813	0.3	9,504,517	0.3	107.0
賞 与 引 当 金	81,567,646	2.5	75,428,636	2.3	108.1
法 定 福 利 費 引 当 金	15,053,538	0.5	13,680,589	0.4	110.0
<b>繰 延 収 益</b>	<b>176,244,624</b>	<b>5.4</b>	<b>103,389,769</b>	<b>3.1</b>	<b>170.5</b>
長 期 前 受 金	340,224,279	10.5	243,600,077	7.3	139.7
収 益 化 累 計 額	△ 163,979,655	△ 5.1	△ 140,210,308	△ 4.2	117.0
<b>資 本 金</b>	<b>3,786,618,800</b>	<b>116.7</b>	<b>3,786,618,800</b>	<b>113.1</b>	<b>100.0</b>
自 己 資 本 金	3,786,618,800	116.7	3,786,618,800	113.1	100.0
<b>剰 余 金</b>	<b>△ 2,419,637,524</b>	<b>△ 74.6</b>	<b>△ 2,262,154,228</b>	<b>△ 67.6</b>	<b>107.0</b>
資 本 剰 余 金	9,040,000	0.3	9,040,000	0.3	100.0
利 益 剰 余 金	△ 2,428,677,524	△ 74.9	△ 2,271,194,228	△ 67.8	106.9
(当年度純利益・△純損失)	(△ 157,483,296)		(△ 119,785,233)		
<b>負 債 ・ 資 本 合 計</b>	<b>3,244,021,757</b>	<b>100.0</b>	<b>3,347,700,696</b>	<b>100.0</b>	<b>96.9</b>

## 比較財務分析表

区 分		令和2年度	令和元年度	増・△減
財 務	稼働病床利用率 (%)	74.7	81.3	△ 6.6
	自己資本構成比率 (%) *	31.3	30.7	0.6
	固定資産対長期資本比率 (%)	81.8	85.1	△ 3.3
	流動比率 (%) *	242.1	227.2	14.9
	総収益対総費用比率 (%) *	98.9	92.3	6.6
	医業収益対医業費用比率 (%) *	89.5	89.8	△ 0.3
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	30.5	31.1	△ 0.6
分 析	医業収益に対する比率 企業債元金償還金 (%) *	2.5	2.4	0.1
	企業債利息 (%) *	1.0	1.0	0.0
	企業債元利償還金 (%) *	3.5	3.5	0.0
	職員給与費 (%) *	55.0	52.0	3.0

(注)1 \*印の付された項目の算出に当たっては、市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取引  
2 令和元年度の職員給与費には、非常勤再雇用嘱託職員、非常勤臨時職員賃金等を含んでいな

## ( 総 合 )

算 式	説 明
$\frac{\text{年 間 入 院 患 者 数}}{\text{年 間 延 病 床 数}} \times 100$ ( 稼 働 病 床 数 )	
$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負 債} \cdot \text{資 本 合 計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	

引が相殺消去された数値を用いた。  
い。

# 比較財務分析表

区 分		令和2年度	令和元年度	増・△減
財         分	稼働病床利用率 (%)	73.3	80.3	△ 7.0
	稼働一般病床利用率 (%)	73.9	81.6	△ 7.7
	稼働結核・感染症病床利用率 (%)	60.4	50.2	10.2
	自己資本構成比率 (%)	29.4	28.6	0.8
	固定資産対長期資本比率 (%)	86.1	89.8	△ 3.7
	流動比率 (%)	209.1	187.5	21.6
	総収益対総費用比率 (%)	99.5	92.0	7.5
	医業収益対医業費用比率 (%)	90.1	90.0	0.1
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	28.9	29.4	△ 0.5
析    対 す る 比 率	医業収益に 対する 比率			
	企業債元金償還金 (%)	2.5	2.4	0.1
	企業債利息 (%)	1.1	1.1	0.0
	企業債元利償還金 (%)	3.5	3.5	0.0
	職員給与費 (%)	53.0	50.1	2.9

(注) 令和元年度の職員給与費には、非常勤再雇用嘱託職員、非常勤臨時職員賃金等を含んでいな



# ( 市 民 病 院 )

算 式	説 明
$\frac{\text{年 間 入 院 患 者 数}}{\text{年 間 延 病 床 数}} \times 100$ <p>( 稼 働 病 床 数 )</p>	
$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負 債} \cdot \text{資 本 合 計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	

い。

# 比較財務分析表

区 分		令和2年度	令和元年度	増・△減
財         分	稼働病床利用率 (%)	80.4	85.4	△ 5.0
	稼働一般病床利用率 (%)	72.8	79.0	△ 6.2
	稼働療養病床利用率 (%)	94.1	97.6	△ 3.5
	自己資本構成比率 (%)	47.6	48.6	△ 1.0
	固定資産対長期資本比率 (%)	44.0	44.8	△ 0.8
	流動比率 (%)	512.0	557.7	△ 45.7
	総収益対総費用比率 (%)	93.5	95.1	△ 1.6
	医業収益対医業費用比率 (%)	84.7	87.8	△ 3.1
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	58.0	59.1	△ 1.1
析   対 す る 比 率	医業収益に 対する 比率			
	企業債元金償還金 (%)	2.8	2.6	0.2
	企業債利息 (%)	0.6	0.6	0.0
	企業債元利償還金 (%)	3.4	3.2	0.2
	職員給与費 (%)	75.2	69.1	6.1

(注) 令和元年度の職員給与費には、非常勤再雇用嘱託職員、非常勤臨時職員賃金等を含んでいな

# ( 木 曾 川 市 民 病 院 )

算 式	説 明
$\frac{\text{年 間 入 院 患 者 数}}{\text{年 間 延 病 床 数}} \times 100$ ( 稼 働 病 床 数 )	
$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負 債} \cdot \text{資 本 合 計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	

い。